

增補考古畫譜

卷五



增補考古畫譜卷五

古部

補後白河法皇御幸の圖

補古畫類聚目錄載之脱畫匠姓名

後鳥羽天皇朝觀行幸繪

東鑑云。寬喜四年正月四日。後鳥羽院朝觀行幸繪。自京師被進之。將軍家今日有御覽。陰陽權助晴賢朝臣。依仰讀彼詞云云。

同天皇御幸圖 三卷

古今著聞集卷十一云。後鳥羽院御幸。供奉人ども

黑川春村原稿

古川躬行纂輯

黑川真賴增補



誠みえらむせ給ひて御あらましは此定ま御幸  
あらむやとて信實朝臣み仰らむて三卷の絹畫  
まかむせらむけり八條左大臣光明峯寺どの左  
右の大臣ふて供奉し給へりめでたき重寶ふて  
ぞ侍りし今ハ修明門院ふむべるとりや此御幸  
ぞあらましむりひてまことハあひりけり  
本朝畫史云後鳥羽院欲有御幸時先使信實畫其  
行裝甚新奇

御襖行幸繪 七卷

後深心院關白記云永和元年十一月御襖行幸繪  
七卷今日申出見之是蓮華王院寶藏御繪也當時  
被預申御室去頃被召寄  
昆明池御障子並裏繪

補真賴曰昆明池御障子ハ世ノ部清涼殿昆明池御障風と  
同ト参看セ

古今著聞集卷十一云まの清涼殿の弘廂もついで  
たち障子を立て昆明池を圖せらむたり其裏も  
野をかきあたこも小屋形あり又近衛司の鷹  
つゝひたるをかけり是ハ雜藝ふむべるとりや  
ふるまむせし少將のころとぞ彼少將といふハ  
大井川のほとりもむむなる季綱の少將のこと  
もやかのかぶるのいへを出てさか野ふかりし  
けるをうつしなるまこと

補帝王編年記卷十二云弘仁九年四月庚辰是日  
有制改殿門號題額凡大内賢聖并昆明池障子荒  
海障子等弘仁年中各被施畫圖云云

躬行曰昆明池ハ禁秘御抄楷梯云昆明池勅撰  
和歌名所 龜山院 昆明池障子一方有唐人釣漁

西京雜記云武帝作昆明池欲伐昆吾夷  
教習水戰因而於上  
於戲養魚給諸廟  
祭祀餘付長安市賣  
之池周廻四十里  
又云昆明池刻玉石

為魚每至雷雨魚常  
鳴吼鬣尾皆動漢世  
祭之以祈雨往々有

地神云古語詩卷五

之姿。一方有手長足長姿。史記封禪書千字文古注云。長安城西有昆明池。漢武時南夷有昆明國。城地方三百里。居水中。能水戰。武帝常伐之。不得。乃設計。據長安城二十里。穿一池。四方四十里。池水滿。造船於其上。教水戰。遂破彼國。為昆明國。號其池曰昆明池。とみまたり  
春村曰。雜藝ハ今様掉歌。田歌の類也。後白河帝雜藝集あり。うどいまハ世ハ傳をらど。たま  
寂蓮法師の真跡の片葉を存也

馬形御障子

中右記云。天永三年十月十九日。可渡御新造大炊殿也。御裝束事云云。見廻所々之處。朝干餉壺。布障子。皆畫馬形。里亭多相具打球也。仍俄宜具打球之

彌真頼曰コマガタノ障子とあるハウマガタノ障子とすべし。部清涼殿臺盤所馬形御障子の條見るべし  
彌真頼曰小松圖障子ハ松の繪の障子といふべし。小野宮殿松の繪障子と同一物ありと。部参看をべし

小松圖障子

由。下知繪師信貞。則畫圖了。令立替建曆御記云。清涼殿布障子如渡殿。無土居。云云。近代引馬繪也。是僻事也。宗忠記。打球騎馬唐人之由也。  
禁掖秘抄云。オチナゲシ二間アリ。布シキミ也。内ニ衝立障子アリ。馬カキタリ。南ノ簀子ニ馬形ノ障子ニ。朝餉ノ向ニハ馬形ノ障子ヲタツ。衝立障子ニハ非ズ。木ヲ立テハサミ立タリ  
古今著聞集卷六云。小野宮のおとゞ。衝立障子ハ小松をゐ。せんとして。常則をゆ。りまど。他行し。さりける。さらむとて。公望をゆ。して書せらむ。り。後小常則をゆ。してみせらむ。ま。か。ら。毛

毎日有る古語詩卷五

芋小似より。他所難るゝとぞ常則にて申ける。常則をバ大上手。公望をバ小上手とぞ。世にハ稱し

本朝畫史云。巨勢公望。世其家。小野宮大臣造。展風。使公望畫小松。

躬行曰。小野宮實賴公。天祿元年五月十八日七十二歲薨。公望。天曆頃の人。飛鳥部常則左衛門少志。河海抄ニ見ゆ。

補後涼殿打毬騎馬唐人繪の御障子

補禁秘鈔朝餉條云。後涼殿布障子如渡殿無土居立。小柱打付有用之時撤之。如五節肩脫。近代引馬繪也。是僻事也。宗忠公記。打毬騎馬唐人之由也云云。補後涼殿引馬繪の御障子

補同書朝餉條云。後涼殿布障子云云。近代引馬繪也。是僻事也云云。

補真賴曰。全文ハ上文。打毬騎馬唐人繪の展風の条ニ載たり。合看とべし。

御即位圖 一卷

住吉法眼如慶筆  
躬行曰。當世之御式也。彼家存稿。

小朝拜圖

住吉法眼具慶畫之

補五節の圖 十卷

補土佐系圖云。邦隆頭注云。畫五節圖十卷。在官庫。

補倭錦云。土佐邦隆五節之圖。

補五節宴醉の圖

補古畫目錄云。五節宴醉圖卷一。一條關白殿五節圖  
ト云フ。右□本松平彈正大弼殿ニアリ。寛政九年  
九月十一日觀輿書云。寛政三辛亥年五月十一日。  
淺井門五郎寫之。

補同

補同書云。五節宴醉圖。從五位下豊前守光長。屏風  
繪十枚。未成之儘。御所御文庫ニ在リ。摹本松平隱  
岐守藏本ニアリ。寛政十年五月觀之。

補同

補倭錦云。隆信五節淵醉圖

補後三年合戰繪

補吉記云。承安四年三月十七日。拾遺來臨。爲見申  
繪所招引也。件繪義家朝臣爲陸奥守之時。與彼國

人武衛等合戰繪也。件事雖有傳言。委不記。又不盡。  
靜賢法印先年奉院宣。始令畫進也。彼法印借出御  
倉送之。爲御徒然歟。

補東鑑卷十九云。承元四年十一月廿三日丁未。奥  
州十二年合戰繪。自京都被召下之。今日御覽。仲業  
依仰讀申其詞云云。

補真賴曰。後三年合戰繪ハ。靜賢法印の畫ける  
之のゐること。吉記の文にて掲焉あり。東鑑を  
るハ。奥州十二年合戰とあせハ。この内ニある  
後三年合戰ハ。靜賢法印の畫りける之のゐる  
べき歟。まごおもふ。今の世ニ傳をせる前九  
年合戰繪一卷ハ。東鑑に見正たる十二年合戰  
ゐるよや。ありらぬよや。畫家こそらの書ニ依

て考ふるところあるべし

後三年合戦繪詞 三卷

原本末記云。上卷詞仲直朝臣。中卷詞左少將保脩。下卷詞從三位行尹卿。畫工飛驒守惟久。

同跋云。右後三年軍記書畫三卷者。播磨宰相輝政。

北方源普宇子東照神君御女彌良正院之所持而彼家奕世之珍藏也。

也。玄孫右衛門督吉明朝臣恐其久而敗壞也。今茲

元祿十四年辛巳冬十月。就京師而修補焉。有故許

拱天覽。聖感不虧。寔可謂希世之勝寶。修補功成。請

于余。欲錄其事。以遺後裔。余不獲辭。遂書以贈之。元

祿十四年辛巳冬十月。下旬。特進藤基時識。

好古小録云。畫飛驒守惟久。詞上卷土御門文殿寄

人仲直。中卷持明院中將保脩。下卷世尊寺三位行

尹卿。原本序散逸。傳寫ノ本ノ序云。貞和三年法

印權大僧都玄惠序。畫力精好事々可徵。

畫圖品類云。三卷畫飛驒守惟久。此卷物四卷ある

を。第一卷うせて三卷存せりとぞ。又引橘窓自語

云。後三年ノ繪卷物序文ト云モノ。尊圓親王ノ筆

ノ摸ヲ見タリ。其文ノ奥ニ貞和三年法印權大僧

都玄惠。一谷ノ衆命ニ應ノ。大綱ノ小序ヲ記ト云

事シカリトアリ。

補本朝畫圖品目云。後三年軍記三卷。畫飛驒守惟

久。書上卷土御門寄人仲直。中卷持明院左少將保

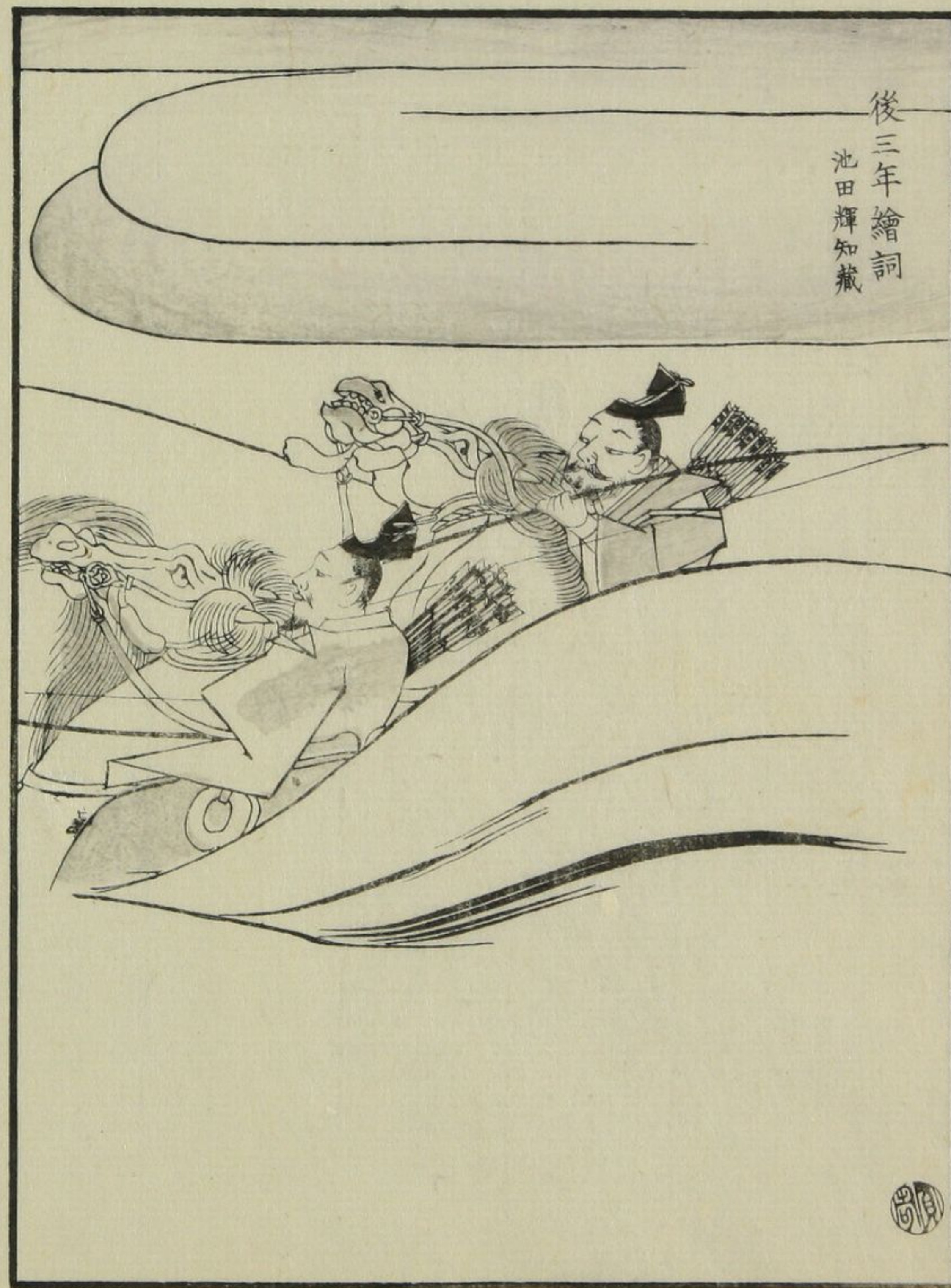
脩。下卷世尊寺從三位行尹卿。

補圖畫一覽上卷云。品類云。此卷物四卷あるが第

一の卷失て三卷存せりとぞ。初將軍家自此條氏



後三年繪詞  
池田輝知藏



增補古書並月卷五



得之。今為因州鳥取家藏。  
東見記云。後三年源義家ノ事。繪草子ナリ。松平相  
摸守殿ニアリ

耳敏川云。後三年畫卷物ハ。飛彈守惟久の筆。ふ  
て。詞書ハ。僧玄惠の作。手跡ハ。尊圓親王のか。せ  
給ひ。一を。代々北條家ハ傳へたり。神君御時。姫君  
北條氏直へ嫁し。給し。後御離縁。ふて歸らせ給  
ふ時。ウの繪卷。ものを携歸りたまふ。其後池田家  
へ。松平因嫁し。給ふ時。ま。その畫卷。を。たづさへ  
給ふ。此御家。あて。ま。あき寶物とあり。て傳へら  
せ。いつの頃。より。詞書。う。せて。繪。の。こ。此家  
ハ。傳。を。せ。り。さ。る。を。近。き。ころ。售。む。とい。ふ。もの。出  
來。あ。り。其。事。池。田。家。へ。聞。え。け。せ。ど。と。あ。ら。れ

補真賴曰。耳敏川ハ  
いつの頃より。詞  
書。う。せて。と。あ。り  
ハ。誤。り。詞。書。も。池  
田。家。あ。つ。た。と。ま。り。  
う。せ。り。と。い。ふ。ハ。  
序。文。多。り。

ざり。水府。大夫。中山。備前。守。や。が。て。こ。ら。の  
あ。が。ぬ。ま。て。あ。が。あ。を。ま。し。真。物。ハ。ま。ぎ。を。あ。り  
り。たり。より。て。詞。書。ハ。中。山。侯。ハ。あり。已上  
取要  
倭。錦。云。飛。驒。守。惟。久。後。三。年。軍。記。序。文。尊。圓。親。王。詞  
行。尹。卿

補貫雄曰。尊圓親王真蹟序文。今存於秋田出羽  
守

補真賴曰。此序文。近き。ある。池田家の藏と。ある。ま  
り。さ。ま。バ。を。べ。て。四。卷。あり。摹。本。博。物。館。に。あり。  
實。物。を。見。る。が。如。し  
躬。行。按。は。持。明。院。保。脩。朝。臣。ハ。尊。昇。分。脉。ハ。權。中  
納。言。保。有。男。中。納。言。保。藤。孫。從。四。位。下。左。中。將。能  
書。人。早。世。と。載。せ。仲。直。朝。臣。ハ。同。書。ハ。後。嵯。峨。院

上北面對馬守源仲朝男。上北面細工所別當。文  
殿寄人。從四位上彈正大弼とミえ。從二位行尹  
卿ハ。世尊寺系譜ハ。宮内卿經尹男。修理大夫行  
房弟。貞和六年正月十四日薨。青蓮院尊圓親王  
ハ。伏見帝第六皇子。延文元年九月寂。獨清軒法  
印玄惠ハ。觀應元年三月化せり。好古小録ハ。少  
將保脩朝臣を中將とし。後嵯峨帝文殿寄人。仲  
直朝臣を。土御門院の文殿寄人とみし。又倭錦  
ハ。行尹卿の一筆とせしハ。各誤あり。亦游清ガ  
耳敏川ハ。此詞書を中山家ハ有と記し。とい  
うる。訛聞をらん。今もいふしへのまゝ。具  
したり。再按。詞書ハ玄惠の作。書手ハ尊圓親  
王とあるを。おもへバ。こハ序文の誤りならむ。

此序文今ハ佚してありし。本文さへ初め闕て。武  
衡ハ國司追歸させよ。りとき。て。陸奥國よ  
り勢をふるひて出羽へこえて。家衡ガをよ  
來ていふやう。云云。よりあり。さむバもと  
四卷ありしといふ説も只管ハ弄がなくぞか  
がゆる。さて明治九年其真蹟をみる。元祿修  
補のまゝ。とて。えて。裝潢ふるび。さど美を盡  
したり。然るは繪様も。さ。りぬま。で。紙あら  
び着色いさく剥落して。所々ハ拙き入墨さへ  
みうちまじり。詞書の墨も。ら。薄く成る。たる  
ハ。當時俗工の手。か。りぬるも。ある。く。元祿  
の修繕あり。ら。ま。し。り。バ。と。く。や。し。く。く。ち。を。  
く。ぞ。か。ほ。め。る。

弘法大師行狀記

十二卷

好古小錄云。畫畫所預光信。詞一卷。大覺寺深守法親王。二卷。一條前中納言公勝卿。三卷。六條中將有孝朝臣。四五卷。後押小路前內大臣公忠。六卷。二條中納言為重卿。七卷。四辻儀同三司公善。八卷。成就院前大僧正果守。九卷。靈山僧實巖。十卷。大炊御門三位入道明燈。十一卷。青蓮院道圓法親王。東寺所傳也。今此畫ヲ熟視スルニ。光信ニテハ非ルベシ。其圖畫所預ノ畫法ニ非ズ。按ニ東寺ノ古記ニ。弘法行狀ノ繪。應安七年ヨリ康曆元年ニ至テ成就ス。繪所預大藏少輔行忠。繪師采女正名。中務少輔久行。定阿彌名。大進法眼名。南都繪師祐高。法眼。凡六人。此畫今片楮半葉存セズ。惜ムベシ。

名畫拾彙云。繪所預大藏大輔行忠。畫師采女正。中務少輔久行。定阿彌。大進法眼。南都畫師祐高。法眼。右六負畫家。共圖高野大師行狀。自應安七年。至康曆元年。成就云。按好古小錄謂。此卷今不存。片楮半葉可惜矣。今東寺藏行狀記十二卷。其書為大覺寺深守法親王。青蓮院道圓法親王。後押小路公忠。公。二條為重卿。石山果守僧正等。應安中人與小錄所云年代合矣。小錄則脫書人之名。東寺所傳又失畫師名。但行忠不見。畫系而巨勢系圖有久末子。有行忠。或是人。然未知巨勢氏為繪所預例矣。遠碧軒記云。大師一生ノ間ノ繪縁起十二卷。繪ハ土佐光信ト云傳レドモ。夫ヨリハ位アシ、其内二卷ハ別ノ筆トミユ。詞書ハ其時代ノ堂上方ノ

神皇正統記卷五

衆ノヨリ合。門跡ノ手モアリ。箱ハ後光明院ノ御  
寄進

元榦曰。近年高野山ノ印本出來と聞けども未  
見。まゝ東寺十輪院の刻本世上ノ流布せり。甚  
惡本也。十二卷を合せて六卷とせり。十二卷と  
ハいゝある事あり  
春村曰。此書十二卷正し。る登し。さる故ハ無  
名氏。永正十七年記云。閏六月廿九日登山。自東  
寺大師繪十二卷懸御目候間。令登山可拜見歟  
之由。自水本被示了。仍僧正御坊予令登山。而於  
御前拜見之。詞水本被讀了。又見聞雜記。文明二  
年八月四日條。殘御道具上醍醐より當寺西  
院へ被返了。朱唐櫃一合。本尊箱二合。一七祖。五

補躬行曰又蓮華定  
院の本あり

大尊一兩界四鋪。十二卷繪。年預宗壽云云とあ  
るを見る。此見聞雜記も東寺の日記ある事  
文中ハ往々徴あま。十二卷とあるもまゝ。行  
狀記ある事疑ひあり  
躬行按。好古小録所載の詞書の筆者應安康  
曆間の人々ある。光信ハ永正大永中を経て。  
文明十二年九十歳卒と。倭錦も載て。年代頗  
後をたき。寺傳ハ光信とせるハ誤。此行  
狀の繪ハ好古小録ハ所記の應安中。行忠等の  
六名。書も深守法親王以下十頁但十二卷の  
筆者を脱する  
る事疑ふべからむ。小録ハ片楮半葉ヲ存せむ  
とあるハ疎漏あり。卷數さへ小録拾彙等ハ十  
一卷とせるハ誤。東寺御影堂具足目錄ハ

神皇正統記卷五

神皇正統記  
卷之五

大師行狀繪十二卷有目錄と記し現存せる處  
十二卷あるをや  
亦曰く拾彙小録ハ書人の名を脱とあは  
ど然らむ彼書ハ書手十頁をあるハ事本  
文ハ載せるが如し拾彙ハハかへりて善成公  
公勝卿有孝朝臣入道明燈僧實巖等の五名を  
洩せりまハ巨勢氏畫所預ハ補せらるハ例を  
志らむとあはむ公忠公望弘高已來行忠が父  
壹岐守有久ハ至るまで代々繪所長者ハ補せ  
らむハ異稱同識あらむ  
補真頼曰舊本弘法大師行狀記ハ好古小録を  
按たるハ片楮半葉存せむとあるハ誤りて今  
存せりまハ同書ハ十一卷とあるハ誤りて十

同  
二卷あり明治十三年編集の教王護國寺寶翰  
古器目錄云弘法大師行狀記十二卷卷第壹大  
覺寺無品深守親王御筆卷第二一條前中納言  
公勝卿御筆卷第三六條中將有孝朝臣御筆卷  
第四後押小路前内大臣公忠公御筆卷第五同  
卷第六二條前中納言爲重卿御筆卷第七四辻  
儀同三司季顯卿御筆卷第八成就院前大僧正  
果守御筆卷第九靈山僧正實巖御筆卷第十大  
炊御門三位入道明燈御筆卷第十一青蓮院無  
品道圓親王御筆卷第十二同二品尊道親王御  
筆と見ゆたりこま東寺の古記ハ康暦元年ハ  
ある弘法行狀繪あり

神皇正統記  
卷之五

好古小錄云新寫畫工姓名不見詞王卿集書外  
簽持明院基雄卿

補真賴曰新本弘法大師行狀記八東寺寶翰古  
器目錄云弘法大師行狀記十二卷卷第壹大覺  
寺一品空性親王御筆卷第二日野新中納言光  
慶卿御筆卷第三照高院准后道澄御筆卷第四  
舟橋式部少輔秀賢朝臣筆卷第五近衛准后三  
菟院信尹公御筆卷第六同東求院禪閣前久公  
御筆卷第七高倉右衛門佐永慶朝臣筆卷第八  
中院中將通村朝臣御筆卷第九舟橋式部少輔  
秀賢朝臣筆卷第十阿野中將實顯卿御筆卷第  
十一青蓮院尊朝親王御筆卷第十二曼珠院良  
恕親王御筆以上外題者持明院權中納言基雄

卿御筆也見正卷五の二をあり

同行狀圖畫 六卷

補奧書云弘法大師行狀之繪卷物六軸詞書者近  
衛殿道嗣公華翰無紛者也僕雖非善之依人之需  
不克牢讓焉遂為之證矣寬文元年臘月上旬畠山  
牛庵隨世印

倭錦云土佐行光野山弘法緣起

補圖畫一覽下卷云大師行狀記高野山往生院谷  
地藏院藏

紀伊國名所圖繪三編第六云繪筆者未詳詞近衛  
道嗣公

目錄第一卷

大師誕生 幼稚遊戲 四王執蓋

地持考古書評卷五

誓願捨身 明敏篤學 聞持受法

出家受戒 明星入口

第二卷

天狗降伏 我拜師山 魔事品

久米寺東塔心柱 大師入唐 入唐着岸

入唐入海 五筆和尚号 虚字書字

第三卷

渡天禮拜釋尊 大師入壇 珍賀怨念

守敏遣護法 道具相傳 惠果入滅

惠果影現 大師擲三鈷

第四卷

歸朝上表 大師參詣御席 高雄灌頂

兩帝灌頂 高野尋入 巡見上表

丹生託宣 三鈷寶劍 大塔建立

第五卷

秘鍵開題 權者自稱 守敏降伏

大峯修行 久米寺講經 神泉苑

東寺勅給 稻荷契約

第六卷

宗論 仁王經法 後七日法

門徒雅訓 入定留真 唯我喪禮

高野珍瑞 大師薨

躬行曰此卷高野山往生院谷地藏院所藏といふ。按小道嗣公至德四年三月十七日五十六歳薨せり。行光延文中の人を坐バ時代ハ合へり。蘭真頼曰弘法大師行狀圖畫地藏院本六卷摹

曾南考古書評卷五

神皇正統記卷五

本博物館小あり。卷尾小記して云。右大師行狀  
圖繪六卷。高野山地藏院什物也。門主無量壽院  
より借用して令摹寫者也。天保五年仲秋養信  
と見ゆたり

同殘闕 一卷

倭錦云。土佐光顯弘法縁起殘闕

土佐系圖云。光顯号土佐元德年中畫弘法大師傳

傳寫在

躬行曰。此卷詞書古筆了意鑑して二條為定卿  
筆とせり。近時躬行弄弄と

補真頼曰。弘法大師行狀記殘闕一卷。光顯とあ  
る外。又光顯の畫ぐる。弘法大師行狀記八  
卷あり。柏木貨一郎藏せり。畫所預土佐光貞鑑

して。越前守光顯真筆とせり。又曰。古板高野大  
師行狀圖書といへるをの十卷あり。繪やう似  
たまども別物なり。詞も亦異あり。かゝ部高野  
大師行狀圖書の條見合をべし

同殘闕

倭錦云。巨勢有康弘法縁起繪殘闕

同殘闕 一卷

古畫目錄云。弘法大師縁起繪卷。詞行成卿。江戸王  
子金輪寺藏

補真頼曰。高野大師行狀繪。金輪寺什の摹本一  
卷。博物館小あり。卷尾云。右高野大師行狀繪并詞  
五卷。古摹本武州若一王子別當金輪寺所藏。天  
保九年歲次戊戌八月下旬。令技寫畢。會心齋法



補真頼曰。此八卷の行狀記ハ。委しくハ。かノ部  
み出せり。就て見るべし

印。又云右元本繪も詞も全々らど。散逸をつつ  
り合せたるものにて。前後不順あり。繪もつと  
みけまど。古きものをうつしとるるまば。より  
どころよなるゆき所いさゝりぬき出してう  
つさしむ。詞書所傳の筆者あり。こも又一段う  
つしおくとのあり。と見ぬたり  
補了悦曰。王子金輪寺什物。弘法大師行狀記ハ。  
二十餘年前に焼失せりをしむべし

同縁起 二卷

繪飛彈守光秀。詞世尊寺行尹卿  
躬行曰。此卷灌頂會。空海贈位ちど。むねと滅後  
の事跡を識し。趣み見ゆ  
補真頼曰。摹本二卷。博物館ふあり。所藏者不詳。

摹本卷尾云。書世尊寺行尹卿。繪土佐飛彈守光  
秀。と見ゆこと

補弘法大師行狀畫 八卷

補東寺寶翰古器目錄云。弘法大師行狀繪卷。八卷

補同 八卷

補柏木貨一郎藏

補真頼曰。此八卷の行狀記ハ。委しくハ。かノ部  
み出せり。就て見るべし

補弘法大師傳

補古畫目錄云。弘法大師傳。從五位下越前守隆成。  
摹在土佐守家。

補真頼曰。空海記。又空海草紙繪といふものあり。  
古畫目錄ハ。空海雙紙繪。住吉藏と見ゆこと

此補考言書詩卷五

こまハ此の弘法大師傳とハ別物にて倭錦は  
刑部大輔吉光の畫かくものとおる即これ  
て摹本ハいつまも住吉家ハあるあるべし空  
海記ハ既よく、部ハ掲げたり。おとつゝ混じ  
ることなうむ

補同殘缺 一卷

補畫光顯詞書筆者慈道法親王青木信寅藏

補真賴曰慈道法親王ハ龜山天皇の皇子あり

金剛定寺縁起 一卷

畫工姓名不傳詞書尊道親王塙忠寶所藏

倭錦云豊後法橋金剛定寺縁起

補忠寶曰畫古土佐詞尊道親王箱書付小堀權  
十郎政尹

貫雄曰此繪二卷をみる畫ハ京都將軍のうち  
ゐらん又近時古筆了伴於浪華得一卷塙氏の  
ものと同手ハ出初めハ五筆和尚と題せり蓋  
空海僧都の行狀あり

補真賴曰金剛定寺縁起ハ即今青木信寅所藏

とみせり

補粉川寺縁起 一卷

補本朝畫圖品目追加云粉川寺縁起一卷

補紀伊續風土記卷三十三の粉河寺繪縁起此縁起

ハ孔子古の粉河寺を草創せしより河内國の郷  
豪佐太夫といふ者觀音の靈驗を蒙り粉河に來  
り一家出家して觀音ハ仕へまつるまでを畫  
きその間ハ詞書を加へて二卷とせり詞もや、

魚貝補考言書詩卷五

地補考古書評卷五

古めき書も宜く、書も俗あらむ。然をとも何れの時の回祿か、かりしや。初の巻ハ焼失せて次の巻ハ今遺りたるも、巻の上下焼爛まで全うらむ。寺僧傳へて書ハ鳥羽僧正覺猷書ハ堤中納言定家卿といふ。

補真頼曰、粉川寺縁起一卷、摹本博物館ハあり。書様志貴山縁起ハ似たり。但殘缺あり。

補躬行曰、此縁起今本寺ハ傳る所一卷ありて、卷子の上下焦むたり。

補同 一卷

補所藏者不詳、畫工不詳、詞勘解由小路行俊卿

補春村曰、此畫一卷、卅三段ありて、天福二年までの事跡を載り、塙忠寶所藏古寫本繪あり。

奥書云、本云應永十九年十一月十三日依法水院僧都長策所望、於三條坊門室町扇屋書寫之本者、勘解由小路三位行俊手跡也。明德四年依願主勘解由小路入道義將道將御詔云云、長祿二年戊寅八月三日書之とあり。

補同 二卷

補所藏者不詳、繪光長、詞雅經卿

倭錦云、春光長、粉川寺縁起

貫雄曰、近時水野越前殿、令小田切直撰寫、原本二卷、繪光長、詞雅經卿

補同 一卷

補伊東修理大夫所藏、粉川寺縁起一卷、畫工不詳、詞書筆者、卜部兼邦

日本書紀古書評卷五

補真頼曰。摹本一卷。博物館にあり。畫ハ光信の風あり。小卷子あり。卷尾云伊東修理大夫殿所持。天保九戊戌年四月。文藏養恒摹と見たり。又畠山牛菴鑒定書を摸せり。粉川寺縁起詞書ト部兼邦とあり

興福寺維摩會繪詞 一卷  
畫匠姓名佚

奧書云。右繪之詞。光嚴院之宸翰無疑貽者也。權大納言光廣謹記之

躬行曰。此卷倭錦。行光畫。天狗雙紙五卷のうち。興福寺卷。詞書後。光嚴院宸翰とあるものはあり

補真頼曰。てノ部。天狗草子の條。志ノ部。七天狗

繪の條見合をべし

國阿上人繪傳 十一卷

親長卿記云。文明十九年九月三日。參詣靈山。聽聞

日中。國阿上人御影等拜見了。縁起舊本紛失。夏頃新調十一卷

躬行按。山城名勝志卷十四。東山靈山寺條。小

國阿上人繪傳云。正面の額ハ小野道風が筆跡。

佛前の扉繪。兩界の曼陀羅ハ圓信が筆跡。此

ほりふもところ。こ小引出た。ま。畫工ハ志

ら。まねど。繪傳なる事ある。詞書ハ親長卿等

當時公卿の集書あるべくおぼゆ

補興正寺再興記 一幅

補圖畫一覽上卷云。寶物目錄云。興正寺再興記一

幅。中院通村公有。烏丸資慶卿奧書。

補心高き東宮宣旨物語繪

補明月記云貞永二年三月廿日云云日來撰出物語月次十二月不入源氏并狹衣云云此所撰夜寢覺御津濱松心高東宮宣旨云云

補真賴曰此の文委しくハ安ノ部朝倉物語繪の條小掲載せり就て見るべし

補子安觀音縁起

補江戸名所圖會卷三高輪云子安觀世音堂寺ハ安を畫像して延喜帝の宸筆ありといふ縁起一卷あり畫縁起ハ土佐光信といふ

補狛野物語繪

補源氏物語螢卷云おらさきのうへも姫君の御あつらひふことつけて物うたりハをてぶさく

補真賴曰物語繪を加ふること延喜ごろよりありけること源氏物語堂の巻の文より見て

おぼしたりこまの物語の繪みであるをいとよくかきたる畫うをとして御らんだ云云

補駒くら行幸繪詞 殘缺二卷

補諸家子散在と畫八幡光時詞書清水谷公藤御

補真賴曰摹本二卷博物館ハあり卷尾云右競馬行幸古圖散逸既久晴川法眼窮搜四方哀為全卷可謂畫苑之碩勲矣桑名老公感賞之餘手書跋語以贈之法眼喜如拱璧使余寫錄之以附卷尾老公真蹟別裝為家寶抑法眼畫學精核考据詳悉傍好本朝典故之學今於此卷可以觀其一端云天保辛卯端午東岳成島司直印と見たりこの外松平定信朝臣の跋文もあせと見づらむしとせバ掲げど此のうち原本四葉管



白洲の舟

五



駒競行幸繪詞  
所藏不詳摹本在  
博物館

六和元古畫詩卷五

長

蒼圃藏せり

補又曰。駒くらべ行幸繪詞ハ。榮花物語。駒くらべの巻の殘缺あり。この外榮花物語繪の殘缺あり。ゑノ部。榮花物語繪の條見合をべし

補古今著聞集卷十六の繪

補花月帖云。著聞集曰。此頃天王寺よりある中間法師。京へのりりたる道にて。云云右刑部大輔光長朝臣所作

補真頼曰。花月帖ハ載るるものハ摹本にて。畫院徒藤原可為摹とあり。中間法師が遊女ををりたる圖あり

補子敦盛草紙の繪

補燕石雜誌卷四云子敦盛

補小町草紙の繪

補同書卷四云小野草紙

小柴垣草紙 一名或稱灌頂卷

柳菴隨筆云。為家卿書畫一筆畫圖品類云。畫信實朝臣。詞為家卿

倭錦云。住吉慶恩。小柴垣草紙繪詞十訓抄卷三云。寛和花山齋宮野宮おをくたる子。公役瀧口平致光平五大夫とりやひけるもの。名立たまひて。郡行もゐくて。まをたまひたる。夫より野のまやの公役ハ。とまりおとる

補本朝畫圖品目云。小柴垣草紙三卷。畫信實朝臣。詞為家卿

補真頼曰。三卷といへるものハ。うたうたし。又

原本末云。寛和三年六月十九日。伊勢のミクダリとまりて野宮よりうへらせ給ひぬなり

曰予が藏せる摸本ハ。畫ハ信實詞慈鎮とあ  
補本朝畫圖品目追加云。小柴垣草紙一卷。原本古  
筆了伴買取。戊申春聞之。

貫雄曰。柳菴隨筆品類等の説。まこと詞書慈鎮和  
尚とせるもの悉非也。畫ハ慶恩詞ハ久我通具  
卿を是とせ。此卷真跡天保年間。古筆了伴  
幕府ハ獻せ。後田祿ハあひて烏有とありぬ  
補了悦曰。小柴垣草紙繪一卷ハ。先代了伴。嘉永  
二年己酉五月廿五日ハ。幕府ハ獻せ。然るを板  
橋貫雄の説ハ。天保年間とせハ誤り。此の  
卷詞書ハ堀川大納言通具卿真跡あり。安政六  
己未年燒失ハ畢ぬ。惜むべし。

明治十七年五月繪  
師草紙徳川家ハ  
りといふことせき  
けりあらバ此卷  
も燒失せきり

躬行按。通具卿ハ尊卑分脈ハ。正二位大納言  
土御門内府通親公男とありて。元久新古今集  
の撰者りうちる。慶恩を建仁頃といふ説  
ハよまバ。同時の人といふ。然るど住吉  
法眼の履歷説々一定あらむ。己ハ灌頂卷の下  
ハいへり

同異本 一卷

補本朝畫圖品目云。小柴垣草紙。異本。畫豊後法橋  
柳菴隨筆云。小柴垣。異本。豊後法橋。類同之。

同 一卷

畫土佐光則。詞持明院基時卿。其圖大同  
躬行按。正二位基時卿ハ。元禄十七年三月十  
日七十歳薨。源左衛門尉光則ハ。寛永十五年



増補考古書譜卷五

正月十五日死也。然まバ此書畫の年季相叶を  
む。

國牛十圖 一卷

補本朝畫圖品目云。國牛十圖。延慶年間

補古畫目錄云。國牛繪一卷

好古小録云。余古本ヲ得テ紀圖南老人ニ贈ル。其  
後世上ニ摹本出來レリ。延慶中ノ物ニノ。余ヲ以  
現ル。先輩曾テ不知モノ也

隨意録云。江都麴街紀公邸第有一堂。稱十牛。云云  
今茲壬午春。見國牛十圖者。畫十國之牛焉。其角耳  
形相皆殊而。且記其出所。卷末云。延慶三年五月十  
日。余河東牧童甯直麻呂記之

補真頼曰。まノ部。駿牛畫詞の條見合まべし

古葬圖 一卷

畫圖品類云。葬送古圖一卷。神祇官白河家所傳

躬行曰。今此圖を見る。近人偽撰して名を白  
川家小かまざるをのひて。棺槨の製をまとり。鼓  
角幡楯冠帽衣服。至るまで。ひとつと採るべ  
きものあり。まべて。無稽の臆説論ぶる。よ  
足らぬ。後人惑ふ事ありれ

補真頼曰。古葬圖ハ。葬送古圖と同物あらん。ま  
の部見合まべし

古尺圖 一卷

畫圖品類載之

古鈴圖 一卷

同書載之

增補考古書譜卷五

增補考古書譜卷五

古代漆革圖 一卷

同書載之

補紅梅殿指圖

補心蓮院所藏

補真頼曰此の摹本博物館にあり原本ハ今京師の人某のをたるよしをきけり尋ぬべし

補孔子連行圖

補倭錦云筆者不定孔子連行之圖

興福寺圖 一卷

國朝書目載之

補國郡繪圖

補人車記云仁安三年十月十二日大嘗會御襖所點地也略中次召繪師能登權守宗茂朝臣參東庭判

官吏仰繪圖畢即圖繪持參□兼六枚次判官吏件繪圖注郡鄉村名云云

補墾田圖 一卷

補本朝畫圖品目云墾田圖一卷天平七年讚岐天

平勝寶八歲攝津天平寶字二年越中

補近衛殿相傳大和繪屏風

補古今著聞集卷十一云近衛大殿の御相傳の屏風どもハミを寶物めて侍うへせんトたむバとて四季の大和繪を一月を一帖お書ておたらちく調せらむとあるん可然事の時客の座より立ちる也元日の節會ハ豊樂院の義をぞ書て侍ある延喜の御時の月の宴御溝水のあがむやうあるふるきみたむへむかむたるいと興ある

增補考古畫譜卷五

事よあん侍ある

補 五節舞屏風

補 鹿兒島縣町田久成藏住吉廣通筆

補 真頼曰此の屏風ハ二帖ありて其の一帖ハ賭弓の圖を名ぶるりのノ部見あををべ

補 同

補 土佐系圖云光信頭注云畫五節之圖于御屏風在官庫其寫在家

補 同

補 古畫目錄云五節圖御屏風在官庫摹在上佐家

補 真頼曰此の屏風光信の畫グけるもやさらバ前條のものと同物をまど今詳は知りかこ一故は暫く別條と以

坤元録御屏風

枕雙紙云こむげんろくの御屏風こそあうくおぶめる名あま

古今著聞集卷十一云能通繪師良親小屏風二百帖ハ繪を書せたりり其中坤元ろくの屏風をバ良親相傳の本にてあん書侍りたる大女御まあり給ひる時二條どのよあらせさせてけり色紙がたハ四條大納言どかまをるよさ為成をして摹さまおり正本ハ一人の人の御相傳のものよ侍り

春村曰坤元録一名括地志現在書目日本紀畧天曆三十倭名抄卷十道枕草紙十一曙抄江談抄二廿九長秋記大治五朗詠集私注等小見也倭名抄四

增補考古畫譜卷五

考證云。現在書目云。坤元錄百卷。不著撰人名氏。按玉海載中興書目。坤元錄十卷。秦撰。即括地志也。其書殘闕。則知坤元錄即括地志。新唐書云。括地志百五十卷。又序略五卷。親王恭命。蕭德言。顧胤。蔣亞卿。謝偃。蘇最撰。今無傳本といへり。又按皇朝類苑卷四十三。大江定基入道寂照の語を載て云。本國有國史秘府略。日本記。文館詞林。混元錄等書。とある。混元錄も。坤元錄もらんを。此方の書と。いさるハ誤也。ま。佐世書目ハ。百卷。新唐書ハ。百五十卷。中興書目。及宋志藝文志。ハ。八十卷とあり。是非をあらば。躬行曰。文館詞林も。又國典も。あらむ。唐許敬宗撰と。之と。十卷。今僅ハ。十餘卷を。本朝ハ。存せり。

躬行曰。能通朝臣ハ。尊卑分脈。山井三位藤永。賴卿男。從四位上左兵衛佐と。之。良親ハ。顯文抄。小右記を引て。左兵衛志。繪師。治安頃とあり。四條大納言公任卿ハ。治安四年十二月十日。致仕。長久二年正月一日。六十二薨せり。

補 金胎兩部曼荼羅 二幀

補 本朝文粹卷十四云。為謙德公修報恩善願文。菅三品弟子某伊尹歸命稽首云云。是以表信丹青奉圖。繪胎藏金剛兩部曼荼羅各一鋪云云。

補 同 二幀

補 續本朝文粹卷十三云。中宮周忌願文。敦光奉圖。繪胎藏界曼荼羅一鋪。金剛界曼荼羅一鋪云云。

補 同

增補考古書譜卷五

補同書卷十三云奉為亡考小野宮右大臣四十九日追善明衡朝臣弟子資平至心誓願白佛而言云云仍為訪彼菩提奉圖繪胎藏金剛兩部曼荼羅各一鋪云云便於法性寺東北院敬以供養矣

補同 二幀

補同書卷十三云小野宮右大臣周忌願文實範弟子某歸命稽敬白佛言云云方今楚痛未盡周忌將來仍奉圖繪金剛胎藏兩界曼荼羅云云屬承平攝錄之道場有安和相國之堂舍尋累祖之結緣排此苔閣啞淨侶而設齋

補同 二幀

補同書卷十三云為亡息隆兼朝臣願文江帥弟子正二位行權中納言大江朝臣匡房合二羽之掌白

兩足之尊云云仍奉為頓證菩提奉造立三尺皆金色阿彌陀如來像一躰奉圖繪兩界曼荼羅各一鋪云云兩部曼荼羅於逝者之素意便是平生之心懷也

補金剛界成身會曼荼羅 一幀

補本朝文粹卷十四云為左大臣息女女御四十九日願文後江相公弟子某稽首禮足十方三寶云云今四十九日齋會奉圖金剛界成身會曼荼羅一鋪奉寫金字妙法華經一部八卷無量義經普賢經轉女成佛經阿彌陀經尊勝陀羅尼經般若心經各一卷便於法性寺道場敬奉供養

補極樂曼荼羅 一幀

補續本朝文粹卷十三云實成卿家督追善願文明

增補考古書譜卷五 五八

增補考古書譜卷五

衡朝臣弟子正二位藤原朝臣實成。至心稽首。白佛而言云云。仍奉圖繪極樂曼荼羅一鋪云云。便於法性寺中先公建立常行三昧堂。敬供養矣。

補 極樂淨土繪 一幀

補 本朝文粹卷十四云。華山院四十九日御願文。江以言奉圖繪極樂淨土尊一摹。奉書寫金字妙法蓮華經一部。開結阿彌陀經般若心經各一卷。右太上法皇去月八日。高龍雲慘晏駕霞登云云。今當七七之御忌。奉圖寫件佛經。敬以奉供養。

補 同

補 日本高僧傳要文抄卷一云。僧正靜觀僧正於西塔常行三昧堂四面柱壁。令圖繪極樂淨土矣。

補 真賴曰。此の繪のこと委しくハ。さノ部西塔

常行三昧堂壁畫の條いふ

補 後白河天皇御繪本

補 古今著聞集卷十一云。後白河院御時。繪難房といふをのありたり。いうまよく書さる繪も。りあらど難を見いごをのありけり。或時ふるき上手共の書たる繪本の中。人の犬を引たる。犬をまひてゆりじと志さる躰。まことよいきてをたらくやうあり。又男のうさぬぎて。たつさふり。あたげて。大木を切さるあり。法皇の仰。是をハ繪難房も力及を。物をとて。即めして見せらる。をりまは。よく。見て。目出度ハ書ハ。難少々候。こを程をまひさる。犬の首繩ハ。去た。の志さよりよくひきを。ごさ。て候べきあり。是ハ

增補考古書譜卷五

地補考古畫譜卷五

犬ハ其まひて繩普通なる躰ニ見ゆ候也。又木切  
とる男目出度候。但己をちどの大木をちうら  
ぎ切入て候。只今ちりたる大けら計にて。前  
散つりたるをし。こを大なる難候と申けれ  
バ。法皇仰らるゝ事もあくて。繪を城さめらる  
たり

補五靈鳳桐畫様

補權記云。長保二年七月四日。參院并左府。召采女  
正巨勢廣貴。仰圖五靈鳳桐畫様。可給織部司之由。  
一昨織部正忠範。令奉事由。仍隨勅所仰也。

補後宇多天皇懷紙下繪

補八丘椿云。東寺藏。建治帝懷紙。鳥落葉。金泥波白  
泥

補後白河天皇御影 一幀

補康富記云。嘉吉四年二月卅日。先詣長講堂。堂前  
之松樹者。故官務彦枝宿禰所殖進也。云云。參御影  
堂後白河庭田中將。被語者。每月十三日。御靈供進  
之時。殿上人為所役。御陪膳參入也。山科流下綾小  
路源家流。卜計參之。其外不可叶之由。被定置也。御  
影者。崇光院殿御代。被付勅封。其後未被開之。院  
らでハ無御拜事也。御鎖開役者。不拜事也。云云。後  
白河法皇御自筆御畫像也。

皇朝名畫拾彙云。嘗聞後白河帝宸筆御影。今在山  
城白河寺倭錦

同 一幀

畫匠未詳。高尾神護寺藏

皇朝補考古畫譜卷五

補倭錦云隆信後白河法皇高尾什物  
補真賴曰摹本博物館にあり座像にて紫地の  
袈裟をうけ珠數を持たまへり巨幅あり

同 一幀

筆者不傳洛東知恩院藏

補真賴曰摹本博物館にあり幅の傍に記して  
云後白川法皇尊影筆者傳來隆信知恩院什物  
天保十一年庚子七月廿三日於院內信重院寫  
と見正たり赤地錦の袈裟をうけたまへる御  
像あり

後鳥羽天皇御影 一幀

補倭錦云後鳥羽院御自畫御影城州加茂松下家  
藏

本朝畫史云後鳥羽院多能而畫亦工如今賀茂神  
主松下家所藏尊像所謂自畫自讚也贊御製二首  
而已蓋松下之先祖氏久以上皇之末子為神主故  
遺此尊容及宸翰

同天皇白描御影

同書云承久記載平相州義時奉遷先帝於隱岐帝  
于時使信實寫真以贈太皇太后御母七條今在于  
水無瀨御影堂每月廿二日播紳緇素相會詠和歌  
于今無斷絶

補畫工便覽卷三云信實左京大夫隆信男善書畫  
云云承久三年七月八日後鳥羽帝令御落飾敕信  
實奉摹寫之矣  
高野日記云信實朝臣ゆて御影をかゝせさせ



神皇正統記卷之五

給ひて七條院へまゐらせらる。云云をききて御影堂ハたてらるし。萬寶全書云。後鳥羽帝御幸の行粧。またあるとみ。うど隱岐のくまへ遷幸の真圖。又順徳院中殿御會圖。ことごとく信實をして是を寫さしむ。蓋遷幸圖ハ。今水無瀬の御影堂に傳をり。中殿御會の圖。或ハ九條家よりありと云や。

補同

補集古十種肖像部云。後鳥羽帝御影。紀伊國根來寺藏。本朝畫圖品目。亦これと同一。

補真賴曰。御直衣奴袴にて。御手は扇をもち給へり。

後宇多法皇御影 一幀

畫工未詳。嵯峨大覺寺藏

補真賴曰。摹本博物館にあり。座像にて珠數をもち給へり。

補同

補山城國柵尾高山寺藏

補裏書云。大覺寺法皇御影也。應永卅三年三月廿五日。相當彼御國忌奉存。此修復者也。右三行半者。越州佐山殿尊聖親王御手跡也。

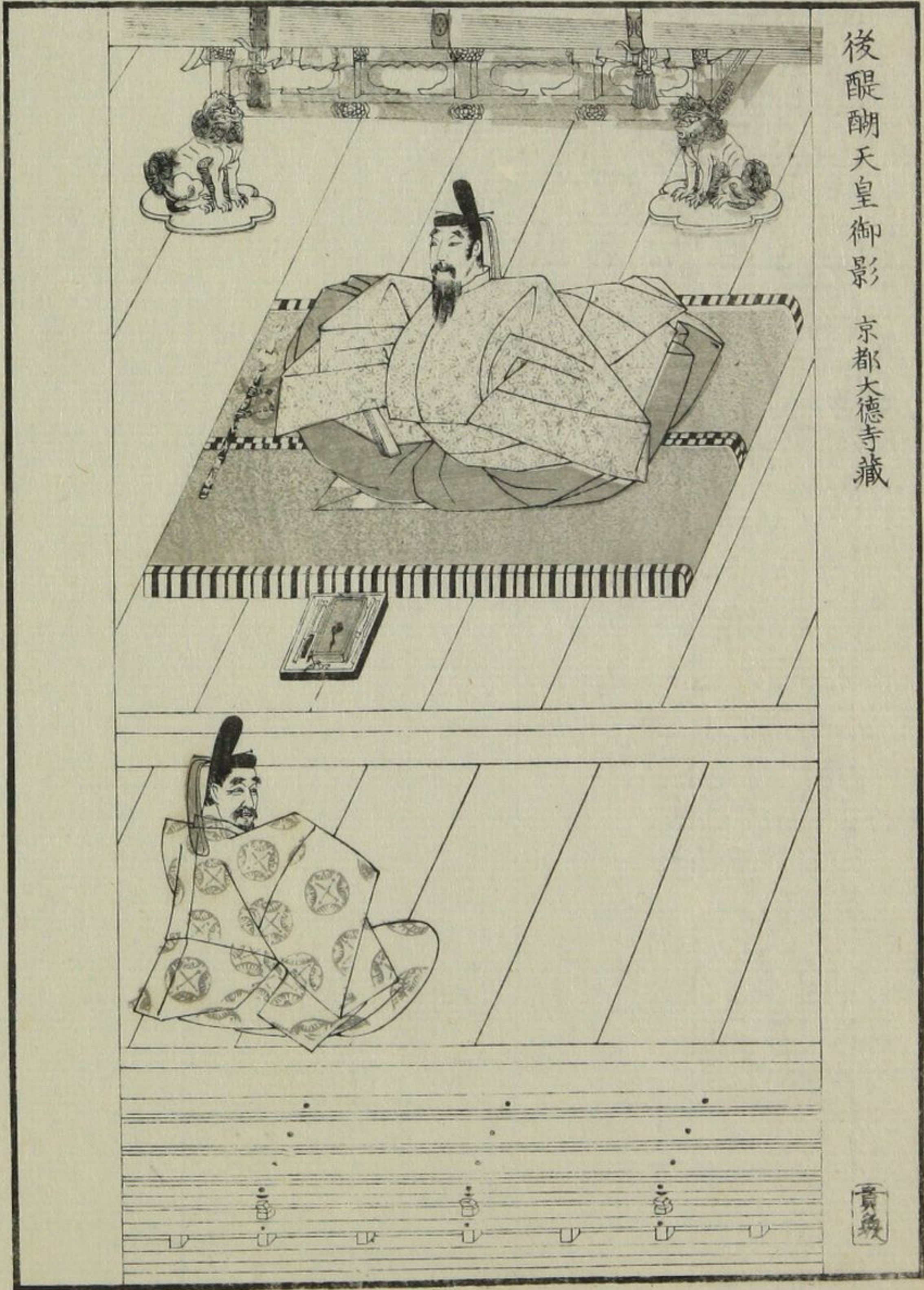
補真賴曰。座像にて珠數を持たまへり。前は包物あり。畫上は讚辭九行あり。

補後宇多天皇御影

補東寺寶翰古器目錄云。後宇多天皇御尊影。一幅。後醍醐天皇御影 一幀。

白目補考 三三

後醍醐天皇御影 京都大徳寺藏



畫匠不傳宿老之公卿侍坐。失其名或云尹大納言師賢卿紫野大徳寺藏

補真頼曰萬里小路宣房卿陪從せる圖あり歴代宸影圖に載せる所の御容貌小似て御髯多

補又曰御座の御後ニ帳臺ありその前ニ獅子狛犬あり御前ニ硯箱あり摹本博物館ニあり補貫義曰大徳寺藏の後醍醐天皇の御影ハ土佐行光あるべし

同 一幀

畫工未詳京師廬山寺什補博物館摹本云住吉内記所持之畫本天保十一年八月於京都摸也紙中二尺七寸六分座像也

增補考古遺譜卷五

と見返たり

補真頼曰。御容貌。大徳寺藏のものといとよく似たり

同 一幀

筆者未詳。紀伊國根來寺藏

補真頼曰。此の御影集古十種に據る。後醍醐天皇ハあらどして。後鳥羽天皇ハませり。但菅蒼圃摹本ハ。後醍醐天皇とあり。いづれハ是あるを去らど。ちりまども御容貌ハ後鳥羽天皇ハ似たり。似て。後醍醐天皇ハ似もつらど。さるハ歴代宸影圖よりてかくいふ

後光嚴天皇御影 一幀  
畫工不傳。山城國寶鏡寺什

補同

補京都泉涌寺塔頭。雲龍院藏。筆者不詳

補山州名跡志卷三云。雲龍院云云。後光嚴院宸影。

交冠淺黃袍。地紫浮  
紋袴。坐像三尺許。安左間

補後圓融天皇御影

補同藏。筆者不詳

補同書云。雲龍院云云。後圓融院宸翰。衣冠淺黃袍。地紫浮紋袴。

座像三尺許。安右間

補後花園天皇御影

補洛陽般舟三昧院記云。後花園院ハ。後崇光院第一の皇子にておえせしを。稱光院ニよみ。トクテ。繼躰の君もましまさぬより。普光院贈相國。いま宰相中將にておえし。まゝなる時。此伏見

增補考古遺譜卷五

殿へ御迎へに參らせ給ひ。嚴重のありさまにて。帝位をふみ給へり。中略御齡四十八のとし。鸞鏡をむらむせ給ひて。御手づくら龍顔を摹寫せらる。畫所預光信に仰らる。尊形をうつさしめ。御製の和歌一篇を題せらる。此院のこさむりり云云。

後陽成天皇御影 一幀

畫工不傳。京都廬山寺藏

補真頼曰。摹本博物館にあり。直衣をして烏帽子を着給へる座像あり。記して云。住吉内記廣定云。如慶ノ筆ナラントあり

補五十五善知識像 一鋪

補玉葉云。建曆元年十月一日巳刻許。明惠上人被

來。五十五善知識像一鋪。神妙之本尊也。予可寫取之由。先日所相語也。談法。文事良久。被歸了。

補五十躰阿彌陀像

補人車記云。仁安元年九月廿四日。始没後沙汰。一幅半御佛六鋪。仰智順法印了。毎日供養分。一尺阿彌陀佛五十躰。二幅御衣。八尺仰頼源法橋了。

補五字文珠像

補東鑑卷十九云。承元四年九月廿五日乙酉。御本尊五字文珠像。更被遂供養。導師壽福寺方丈。此儀五十度可被行之由。有御願云云。

補五尊像 一幀

補法隆寺藏。畫工不詳。補裏書云。五尊像及大破之故。奉修覆者也。于時寶

永七庚寅十一月日。權少僧都覺賢表具師京吾孫子能登椽

補真頼曰。この圖大日四臂二臂の觀音の像あり。外に空海聖德太子の像あり。すべて五尊像あり。絹本彩色剥落せり

補虚空藏菩薩像

補元亨釋書卷三云。釋道昌。姓秦氏。讚州香河人。幼歲離家學三論。弘仁七年秋。試經得度。九年於東大寺受具足戒云云。昌一日宴坐。虚空藏菩薩現。衣袖上。昌乃截袖圖之。安法輪寺

補五大尊像

五幅  
補東寺寶翰古器目錄云。五大尊御修法ノ本尊大破。永仁四年ノ箱ニ入ル。五幅

同 五幅

倭錦云。土佐隆兼。五大明王  
貫雄曰。鎌倉鶴岡社僧香藏院所傳あり。大威徳の一鋪書續ふて甚拙。其餘ハ真跡絶倫と云べし

同

同書云。海田相保。五大尊圖。攝津國住吉寶庫

補同

補同書云。住吉具慶。五大尊大幅。御祈念佛

補同

補春記云。長曆四年十月十九日。關白命云。真言院五大尊。十二天像等。經年序朽損。仍以丹後講師政圓令圖繪。以其功可令重任之由。可仰上卿者。仍

奏此旨了

補同

補權記云長保二年七月十五日召佛師平慶給絹

一疋文八宛奉圖五大尊料

補同

補駿府志略云久能寺真言宗初在久能山信玄據

山築城乃徙今地有觀音堂越海對美岳佳矚也

弘法大師五大尊圖惠心僧都千手觀音圖聖一國

師入宋時所著袈裟寺田二百二十二石

補五百羅漢像

五十幅

補新編鎌倉志卷三寺圖云五百羅漢畫像五十幅

內十七幅八兆殿主筆餘八唐筆ナリ

補同

五十幅

補東福寺藏兆殿主筆

補山城名所寺社物語卷二東福寺てうでんとの

書々る繪云云五百羅漢

補住吉家摹本與書云此五百羅漢五拾幅之繪當

寺昔時罹騷亂之日悉雖散失以諸人寄進之志粗

還附矣雖然其中欠貳幅者百餘霜一衆以為憾而

已此趣達人皇百八代後陽成院聖聽則即降院宣

於畫工狩野右近將監藤原孝信令圖此二幅忝賜

焉誰不貴仰哉元和第六庚申臘月下澣東福住持

比丘集雲叟守藤記焉

補矜羯羅童子像

補倭錦云土佐光弘矜羯羅童子

補小島荒神像

一幅

補同書云。巨勢有康。小島荒神

補真賴曰。此の像。博物館にあり。絹本あり。その像四臂ありて。容貌柔和あり。前中二夜又たてり

補又曰。増補佛像圖彙卷三云。小島荒神。惡人治罰。故麤亂荒神。又衛護三寶。故號三寶荒神。と見たり。三寶荒神と稱するハ。三面六臂あるをいふ。去る世ども佛像圖彙の説より云バ。小島荒神をもまゝ三寶荒神ともいふありたり

補事代主命像

補古畫類聚目錄云。事代主命像。大和國。飛鳥社藏

補以仁王像

補岩代國會津郡高倉宮藏

孔子像

一幀

補真賴曰。衣冠の像あり。摹本博物館にあり

倭錦云。土佐邦隆。孔子像。詞世尊寺殿。南都宮什物。躬行曰。孔子をいぬへハ久慈とよびしりど。今ハあべて漢音よの稱ふをバ。俗にあらひて此に載せぬ。さて孔像ハ袞冕。大司寇。几座。連行。ちどいふがあらるを。是ハいづれの像より。尋ねて記をへ

補同

補東大寺寶物目錄云。孔子像一幅。粟田口法眼筆。讚管原長衡朝臣

補真賴曰。粟田口法眼ハ隆光あり。今博物館に藏する所の孔子の像あり。絹本彩色密あり。讚

小云とく。孔丘字仲尼魯人。開元廿七年制。追謚為文宣王。大哉宣聖。斯文在茲。帝王之式。古今之師。志則春秋。道由忠恕。賢於堯舜。日月其譽。維時載雍。戢此武功。肅昭盛儀。海寓聿崇。從四位下右兵衛權佐管原朝臣長衡謹書と見たり。又其の裏書小云とく。大聖文宣王尊像御讚管原長衡朝臣畫。田口此尊像破損之間。仰表背師奉修復之畢。永正十二年丙子四月十五日。中原賢海と見たり。此の畫像恐らくハ東大寺小藏せしものあらん

補同

補百練抄卷十二云。建曆二年三月五日。自内裏被渡大學孔子御影。為書寫也

補弘仁以後鴻儒像

補扶桑畧記卷廿二云。仁和四年九月十五日午二刻。勅令畫師巨勢金岡畫于御所南庇東西障子。令直方。與基惟範。時平朝臣等擇詩。弘仁後鴻儒之堪詩者。即令金岡圖其狀矣

弘法大師像 一幀

東寺御影堂内外陣具足目錄云。大師御影二鋪。一鋪後宇多院宸筆。為談義本尊御施入。一鋪依有宸筆損失之恐。為二季談義本尊奉摸寫之。繪師萬宗法眼筆。文字大覺寺二品法親王

補同

補東寺寶翰古器目錄云。弘法大師談義尊影。讚守覺法親王。繪萬宗法眼



補 寺社寶物展覧目錄東寺云。後宇多院宸翰。大師像并贊一幅

補 皇朝名畫拾彙云。後宇多帝宸繪。弘法大師像并贊其上。今在京師東寺

補同

補 三國傳記卷三云。地主山王告ケ給シ夜々ノ靈光ハ。此樹上ノ三鈷ニテゾ有ケル。則三鈷ノ松ノ本ヲ占御菴室ヲ造ル。今ノ御影堂是也。彼御影像ハ入壇ノ御弟子真如親王ノ為末世寫シ給フ。大師自筆執テ御開眼アリケリ云云

補 攝陽群談卷十二豐島郡伏尾村久安寺御影堂條云。此所弘法

大師暫々住居ノ地草室ノ古迹ナリ。是則天長年中祈雨壇場ト云ヘリ。大師ノ像ハ真如法親王畫

之云云

補同

補 古畫類聚引用目錄云。弘法大師像。伊豆國般若院藏

補 集古十種肖像部云。弘法大師像。伊豆國般若院藏

補 真賴曰。右手ノ獨鈷をもち。左手ノ珠數をもてり

補同

補 頓阿高野日記云。綱元のいほりよ。こよひハあう侍まうしとあまハ云云。くまてたどるこ。いかりよいりぬ。綱元火うちをとりのいで。とも。つけたまふをまきバヤ。七尺四面の庵よ。みだ。と大師の像をうけて。佛具さをやうよ。あうだ

お軒ちううつらひそのまゝ水結び花まゐら  
せうへ火かゞけそへ香あもうつてこのぞう  
周制の筆めておそまをどぞ云云

補同 一幅

補東寺寶翰古器目錄云宇多天皇宸翰大師尊影  
并御讚一幅

補同 一幅

補同書云弘法大師真筆自影像一幅

補同 一幅

補同書云弘法大師像僧正賢賀筆一幅

補同 一幅

補同書云託磨法眼筆弘法大師影像一幅

補同 一幀

補東寺藏摹本博物館にあり畫工未詳巨幅あり  
補真頼曰座像みて倚子の上的坐せり畫上畫  
下の數百語を記を摹本に因て案をるは空海  
の手跡の如し原本を見て定むべし

補同 一幀

補真尾山藏畫工不詳絹本巨幅

補真頼曰摹本博物館にあり記して云真尾山  
什物ヲ寫ス右高雄山什物ヲ寫置處此度高山  
寺々中於方便知院寫モノナリ天保十一子九  
月下旬漸入養承と見ゆたり

補同 一幀

補所藏不詳畫工不詳摹本博物館にあり

補真頼曰絹本にて倚子に坐せる普通の像を

り。畫上に置色紙三枚あり。楷書にて讚辭を記せり

補同 一幀

補 榎尾高山寺藏。繪南池院僧都。摹本博物館にあり

補 真頼曰。座像にて右手に五鈷をとち。左手に袈裟の端をとり。等身の像なり

補 弘法大師童形像

補 高野山定光院藏。畫工不詳。摹本博物館にあり

補 幅背に記して云。童形大師高野明神丹生明神三幅對之。内高野山定光院什物。享保五庚子初秋。修復之而為三幅一對。定光院龍鏡幅上に記之

補同 一幀

補 高野山南院藏。摹本博物館にあり

補 真頼曰。圓相中童形の座像あり。畫上に置色紙三枚あり。空海の小傳を記せり。筆者不詳。補 又曰。その像大略定光院の像におかると。是もまと三幅對のうちの中尊あるべし

補 國阿上人像

補 親長卿記云。文明十九年九月三日。參詣靈山。聽聞日中國阿上人御影等拜見了

子島真興僧都像 一幀

補 裏書云。奉圖子島先德真興少僧都御影一鋪。贊者大乗院經覺前大僧正御房御筆。繪者芝三河法眼觀深。寶徳四祖撰。歳次壬申仲□下旬天而已釋□。倭錦云。芝觀深小島先德僧都像。贊興福寺經覺

皇朝名畫拾彙云。芝三河法眼觀深。南都繪佛師也。曾見所畫子島真興僧都肖像。贊大乘院經覺大僧正筆也。言經平卿三男

**補** 悟心和尚像 一幀

**補** 所藏不詳。畫工不詳。摹本博物館にあり

**補** 真賴曰。右手ハ竹筥をもち。曲録はかゝる像あり。畫上は江心承董の賛辭あり。弘治初三丁巳孟夏廿八日。とあり。畫工某主座とあり。主座の上破損して讀がさし

**補** 真賴曰。來迎寺三尊佛のこしらへ部來迎阿彌陀三尊の像の條見合をへし

佐部

三尊佛

倭錦云。慧心僧都來迎彌陀三尊。江州來迎寺什物

同

同書云。土佐永春來迎佛下ニ善導法然

同

同 巨勢金岡阿彌陀三尊。芝山觀音寺什物

同

類聚雜例日長元九年六月廿六云。先朝舊臣相議曰。云云各採法華有緣之品。自以金泥畫紫色紙於淨土寺殯殿奉供養矣。云云左中辨經輔。經卷之外奉圖阿彌陀三尊請權大僧都教圓為講師

**補** 三千佛繪像

補廣隆寺緣起再修本云。三千佛繪像一鋪道昌僧都畫作

補三千佛像 三幅

補東寺寶翰古器目錄云。古畫三千佛。應永廿七年十二月沙門朝俊寄進三幅

西園寺家妙音堂本尊

崇光院琵琶御傳業記云。繪所預隆兼畫之後。伏見院御本尊自故院賜之

補嵯峨釋迦像

補畫工便覽卷三云。釋叡尊。號思圓坊。律元僧。善繪。摸寫洛之嵯峨釋迦及影像。在于今和州三輪大五輪寺深寶之

嵯峨釋迦緣起 五卷

畫狩野元信詞筆者不傳

補真賴曰。嵯峨釋尊緣起五卷。摹本博物館子あり

補嵯峨光佛緣起

補圖書一覽上卷云。池底叢書卷六十二云。嵯峨光佛緣起

補嵯峨清凉寺大念佛緣起繪 二卷

補古畫目錄云。嵯峨清凉寺大念佛緣起繪二卷。嵯峨清凉寺藏

補真賴曰。此の緣起ハいとゆる。融通念佛緣起

の清凉寺本といふものあり

補山王日吉緣起

補圖書一覽上卷云。山王日吉緣起

補可為曰繪曼陀羅一幅絹地也。今在本社。

補山王猿傳記

補同書云。山王猿傳記

補山王靈驗記繪 二卷

補古畫類聚目錄云。山王靈驗記。寂濟筆。

補倭錦云。土佐寂濟。山王靈驗記詞。徹書記。正般正。

廣堯孝

補真賴曰。山王靈驗記摹本。博物館に藏せり。一

卷の物あり。二卷の物あり。一卷の物ハ賴豪憤

怒の條を畫り。故に此の卷を賴豪雙紙と

もいへり。二卷の物ハ卷端に院源暹賀聖救。桓

彥。賴豪良貞等の名を記せり。因て按るに二

卷の物も尚缺本にて。此の他の僧のことども

をも書載するものあるべし

補山門僧傳繪詞 一卷

補本朝畫圖品目云。山門僧傳殘缺畫ハ光信と云。

詞一條。禪閣兼良公

補博物館所藏。摸本の卷尾に記して云。此一卷ハ

卷の名所傳をし。詞書ハ一條。禪閣能阿彌。金阿彌。

能登守忠英の筆跡にて。畫ハ土佐光信と云つた

ふる由。古筆了伴。此春京師より求め出せしとて。

新見伊州の見せらるるを。法らこ。披閱するま。

こハ前繪所預兵部入道寂濟。畫りける山王靈

驗記。小そ有たる。さるハ先年余具慶。摹本。山王

靈驗記二卷を。住吉内記にかりて。寫し置たりし。

その一卷の真跡を。さるハあり。さるハ光信が筆と

つとふるハ誤ホして寂濟ヲ筆アリ寂濟ハ清涼  
寺所傳の融通念佛縁起繪詞のうちの畫人ハて  
姓ハ藤原兵部少輔ヲ任セラレタリ又繪所預  
を兼たり出家して入道寂濟と稱セ常樂記ハ六  
角前繪所寂濟入道應永三十一年二月二日往生  
とあり繪ハその頃の栗田口隆光ハ比を並ハヤ  
、劣並りといへども見どころありよて之ヲ  
りみかりてうつしおくものあり 天保十二年  
三月日會心齊法印誌

最須敬重繪詞 七卷

詞存畫逸卷後云文和元年壬辰十月十九日令書  
寫安置之隱倫乘專

春村曰西本願寺真宗法要又東本願寺假字聖

教中並收之俱刊本也又此詞在於續羣書類從  
第二百十九

三論繪 一卷

一名酒食論

補古畫目錄云三論繪卷茶酒餅也水野左内所藏土佐

家粉本又有此圖

補本朝畫圖品目云三論一卷畫者不傳詞後成恩  
寺殿

好古小録云詞後成恩寺殿畫不傳今ノ繪ハ後ノ  
俗工詞ニヨリテ寫スモノ也

倭錦云土佐光元酒飯論詞兼載法師

躬行曰光元ハ刑部大輔光茂男永祿二年正月  
十三日卒也禪問ハ文明十二年四月二日薨  
て稍先輩也羣書類從第三百六十八酒食論あ

躬行曰兼載永正中  
の光元同時

日本書紀卷五

補真賴曰。三論繪。或ハ酒食論ハ下戸上戸繪詞  
と同物をまじど。畫工のおのり筆力まじりせて  
あがけるが異あるところあるなり。下戸上戸  
繪詞といへるうさハ摹本博物館ニあり

管子落雙紙

畫圖品類載之

躬行按。羣書類從合戰部第三百八十六。管子落  
草子中尾落草子あり。此等素より繪詞を  
りやしらば

三韓退治繪 三卷

倭錦云。住吉如慶三韓退治

補真賴曰。三韓退治繪と。三韓征伐とハ。おあし

おもわきあるまじど。異あり。三韓退治繪ハ。専ら神  
功皇后の。韓國を討征し給ふことをかけり。三  
韓征伐ハ。韓國討征よりそまりて。神功皇后  
應神天皇の。神とあらをま給ひて。靈驗あるこ  
とまでをあるせるものあり。たゞいづれも  
三卷のそあり

補三韓征伐 三卷

補圖畫一覽上卷云。三韓征伐。本名譽田八幡宮縁  
起

補真賴曰。三韓征伐ハ。即譽田八幡宮縁起あり  
摹本二卷博物館ニあり。委しくハ。は、部ニあ  
るせり

狭衣物語繪 八卷

日本書紀卷五



明月記云貞永二年三月廿日日來撰出物語月次不入源氏并狹衣云云源氏當時中宮被新圖狹衣又院御方別被書

古今著聞集卷十一云天福元年の春のころ院藻壁門院方を日ちて繪づくの貝おろひありけり云云院の御かた御負ありて狹衣の繪八卷またさまことの物語まぜて四季よかきく一月をひとまきよ十二卷ゆせらむたりなり

同

本朝畫史云後高倉太上天皇後堀川嗜畫圖曾書狹衣物語古實

同

畫飛彈守光秀詞伏見帝宸翰

伏見天皇文保元年  
為五十光秀刑部大  
輔吉光男元亨頃人  
或云嘉元中

補倭錦云土佐光秀狹衣詞伏見院

補真賴曰狹衣物語殘缺一卷摹本博物館よあり但畫工不詳詞書筆者ハ卷尾に伏見院と見たり

補又曰光秀の畫の狹衣ハ明治元年五月の亂小東叡山よて兵火に罹りたむとさきとこゝかこ焦むるのとゆてみありらハ燒ゆば今ハ卷々日おきて諸家よて藏せり

更級日記繪

明月記云貞永二年九月廿日更級墨繪隆信朝臣娘右京大夫尼畫之殿富門院蹄姫宮之人被書詞云云為能書云云但前後之文在下

三十六歌仙 二卷

補 倭錦云。信實三十六歌仙卷物。歌後京極殿

補 古畫目錄云。三十六歌仙二卷。藤原信實筆。真蹟

佐竹右京大夫藏。摹本在住吉内記家

補 本朝畫圖品目云。三十六歌仙。畫信實朝臣。略傳

及和歌。後京極殿

補 同追加云。信實朝臣。或云光時畫

好古小錄云。畫藤原信實朝臣。畧傳及和歌。後京極

殿。後世ノ衣服ヲ以テ當時ヲ寫ス。古昔ノ制ヲ考

ルニ益ナシ。六七百年來ノ衣服。詳ニ考フベシ

貫雄曰。此歌仙躬恒一葉。昔日散佚。狩野守

信書畫一手ヲ補足。今傳ふる處。即是也。り

躬行曰。此卷一説。光時所畫。と云。光時ハ八幡

平三と稱せり。建永二年の明月記。見正。り

當時の畫工あり

補 真頼曰。信實三十六歌仙摹本二卷。博物館あり

補 又曰。兼葭堂雜錄卷一。云。京師下鴨の神庫

の所藏。ハ三十六歌仙の繪卷物あり。書ハ後京

極良經公。畫ハ左京大夫信實朝臣あり。尤おの

おの肖像を畫りきたるも。其初住吉の一首

ハ。風景を畫かきたり。其光景古風。ハ。今の

圖とハ。違ひてめづらし。ハ。ハ。摸寫を云云。と

見正。て。其の住吉の圖を載。り。其の圖。其の運

筆。佐竹家の藏。といさ。り。も。た。り。ふ。と。ころ。を

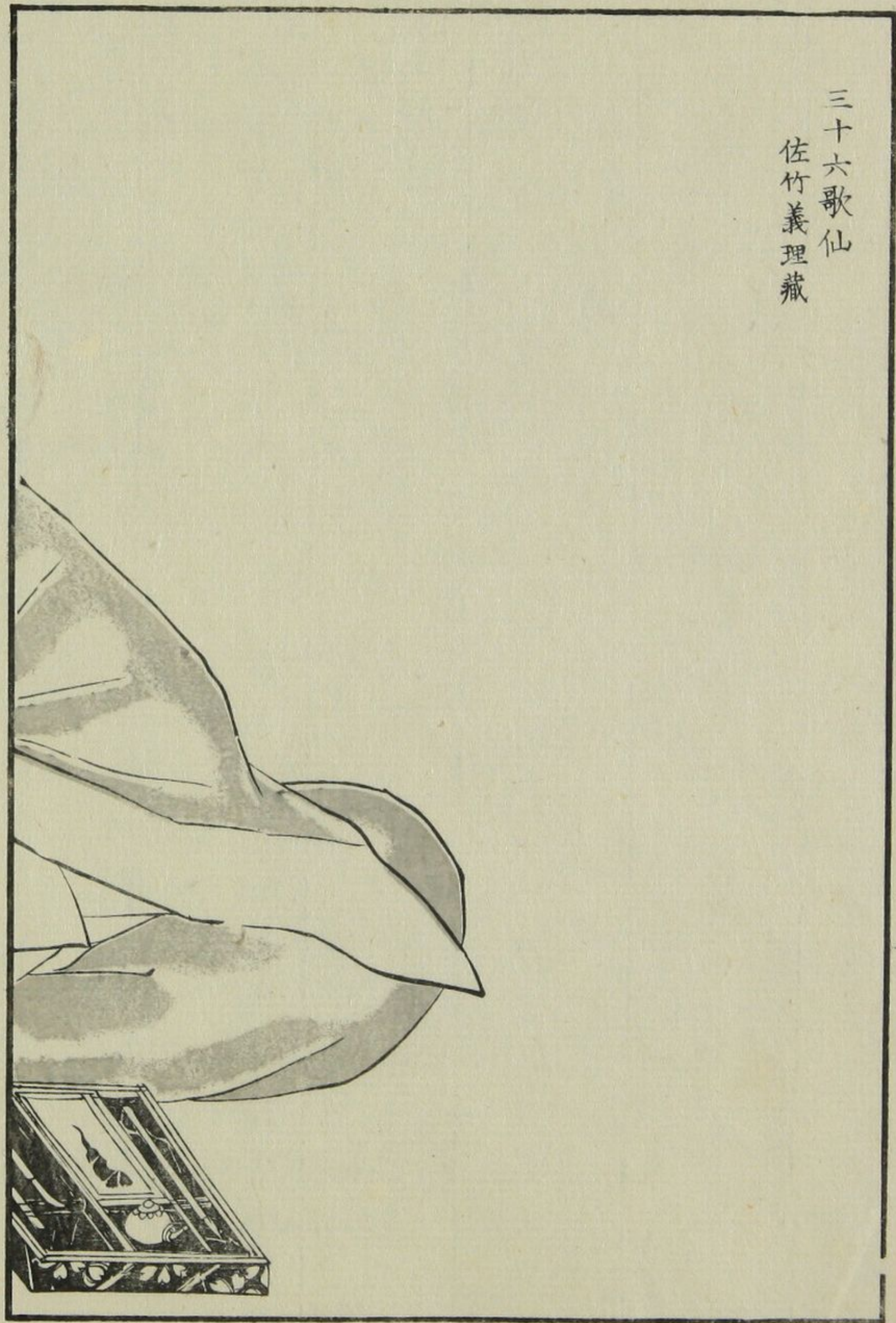
し。因て。按。と。る。ハ。佐竹家の藏。ある。もの。ハ。を。と

ハ。下鴨の神庫。あり。し。も。や。あら。ん



曾補考古書譜卷五

五



三十六歌仙  
佐竹義理藏

增補考古書譜卷五

同 殘缺

倭錦云信實歌仙人物上<sup>レ</sup>疊殘缺歌<sup>ノ</sup>家卿

同 殘缺

後醍醐天皇書畫宸作

同 殘缺

倭錦云春日光長三十六歌仙殘切歌後京極殿

土佐系圖云刑部大輔光長畫歌仙

同 殘缺

補古書目錄云木筆三十六人歌合繪越前守光顯

筆水戸家御藏

古畫類聚目錄云越前守光顯三十六人歌合圖

倭錦云土佐光顯才筆三十六歌仙色紙和歌

補同

補倭錦云土佐光顯歌仙殘缺歌慶運

補同 殘缺

補後鳥羽院御書畫白描在原業平一葉青木信寅

藏

補真賴曰業平朝臣の歌世の中よた<sup>レ</sup>迄て櫻の  
ありりせ<sup>レ</sup>バ春の心ハのとけ<sup>レ</sup>からま<sup>レ</sup>此の歌  
を記せり後鳥羽天皇の書畫一筆の歌仙色紙  
ハ着色あるもあ<sup>レ</sup>どこ<sup>レ</sup>ハ白描<sup>ノ</sup>て一種別  
あり

同 殘缺

御子左俊忠卿書畫

同 殘缺

五條三位俊成卿書畫白描素性一葉長井十足藏

增補考古畫譜卷五

皇朝名畫拾彙云俊成卿常作書畫且為贊詞頗有志趣歌仙圖傳于今

同 殘缺

倭錦云信實歌仙殘缺和歌平業兼

躬行曰順一葉長井十足藏せり

補了悦曰予もまゝこのうち一葉藏せり藤原

清正の像あり

同

同書云春日行秀三十六歌仙色紙和歌書副植家

公

同

同書云僧豪信歌仙殘缺和歌二條為重卿

同

豪信法印從三位中務大輔藤原為信卿男貞和頃人

皇朝名畫拾彙云二條為重卿權中納言從二位左中將為冬男至德二年二月十五日薨歲六十二畫歌仙等圖加贊其上

補了悦曰予為重卿書畫一筆のものを藏せり源重之の像もて豎物但畫ハ白描あり

補同

補倭錦云土佐邦隆三十六歌仙卷物

補同

補同書云土佐寂濟三十六歌仙大色紙

補同

補同書云海田相保歌仙切

補同

補耳敏川云下谷の本阿彌三郎兵衛り家子先祖

增補考古畫譜卷五

光悦り書し三十六歌仙あり。畫も歌も同筆あり。世に書の名高りをもども。繪もまゝに凡ならど。と武清の話あり。光琳ハ此門人あり。世に光悦の畫ハ至て稀あり。

補 真頼曰。本阿彌光悦の三十六歌仙書畫一筆のもの板本あり。

補同

補 土佐系圖云。吉光頭注云。歌合人物三十六歌仙畫也。今不全備。

補同

補 倭錦云。住吉如慶三十六歌仙三通。服色模様。中院通村卿撰。則右下畫ニ同卿加筆。冷泉為久卿下畫ニ加與書。

補同

一卷

補 古畫目錄云。三十六歌仙一卷。藤原信實畫。小笠原右京大夫家藏。狩野養川院家藏。甚類比。

補同

殘缺

補 古畫類聚目錄云。三十六人歌合圖。越前守光顯筆。人丸。敦忠。友則。

補同

古摹本

補 同書云。三十六人歌合圖。古摹本。猿丸大夫。齊宮女御伊勢。藤原繼蔭女仲文

補同

補 古畫目錄云。三十六人歌合繪。右京權大夫信實筆。京都土佐家繪本。上ニ色紙形歌意ヲ繪ク。疑ラクハ信實ニアラジ。

補同

殘缺一枚

補書光長書為家鄉。覺島縣士族所田久成藏

補真賴曰。齋宮女御の像あり

補同

殘缺

補後小松天皇書畫御一筆。古筆了悦藏

同

書刑部大輔吉光歌二條為世卿

跋文云。右歌仙之詠為世卿筆跡。云云。然而公任卿

撰卅六人之内。省猿丸大夫加定文。又中務歌於拾

遺朝忠作也。如此事所為難強計。只為翫圖畫暗書

之者乎。寬丁丑林鐘涼天。亞槐藤光廣

躬行曰。為世卿ハ為家卿の孫。曆應元年八月五

日八十九歲薨せり。吉光ハ正安頃の人を世ハ

年歴相りるへり

補真賴曰。摹本博物館ニあり。卷尾云。歌仙一卷

細川能登守藏。奥書烏丸光廣卿。繪土佐光信と

永真添帖あり。愚按。光信よりも古きもの也。住

吉内記ハ吉光と書付あり。歌二條為世卿。法橋

牛庵添帖あり。天保十一年庚子七月廿日。摸寫

畢。養信花押と見正たり

補同

一卷

補摹本博物館ニあり。記して云。繪隆信。書業兼卷

尾云。右歌仙一卷。以住吉内記所藏。摸本。天保八年

丁酉九月十七日。會心齋摸

補同

一卷

補書畫筆者不詳。摹本博物館ニあり

補 真頼曰。此の繪古土佐の筆とのミありて畫工傳記あり繪ハ彩色あり書ハ上代様あり

補同 殘缺

補 慈鎮和尚書畫一筆

補 真頼曰。古筆了悦此の摸本を藏せり。躬恒の像より上は歌三首あり。予狩野守信のこの圖を摹寫せるを見る。珠勝のミのあり

補同 殘缺

補 爲秀卿書畫一筆

補 真頼曰。古筆了悦此の摹本を藏せり。平定文朝臣の像より上は歌三首あり

補同

補 爲之卿書畫一筆

補 真頼曰。此の繪普通の三十六歌仙よりあらそ。其の故ハ清輔朝臣の像より上は歌二首あり

同 殘缺

倭錦云。二條爲家卿歌仙書畫

皇朝名畫拾彙云。爲家卿權大納言。出家名融覺。能畫歌仙像。題倭歌於其上。書畫并清雅

貫雄曰。大中臣能宣一葉。水野上佐守藏之

同色紙 殘缺

倭錦云。後鳥羽院歌仙色紙御書畫

貫雄曰。元真一葉。杉浦左衛門尉藏。函裏書云。天下十六幅之内也。又平仲文一葉。水野土佐守藏其餘三四葉在于人間



増補考古書譜卷五

補真頼曰此の色紙の畫ハ着色あり

補同短冊 三十六葉

補畫工便覽卷三云信實左京權大夫隆信男云云  
短冊三十六片畫歌仙筆一頗土佐風格

西行物語 殘缺一卷

補西行物語殘缺一卷尾州家藏

補博物館所藏摸本卷尾云或日神村某西行物語  
一卷を携來りて見せ侍る繪ハ土佐刑部大輔光  
信詞ハ中院大納言為家卿尾張黃門家藏せらる  
、之のありと此物語予も所持せるといへども  
其作るをあらば年来人おも問々るまたりを  
らむこゝ中院大納言ハ建久九年生建治  
九年薨と西行法師ハ建久九年寂然を

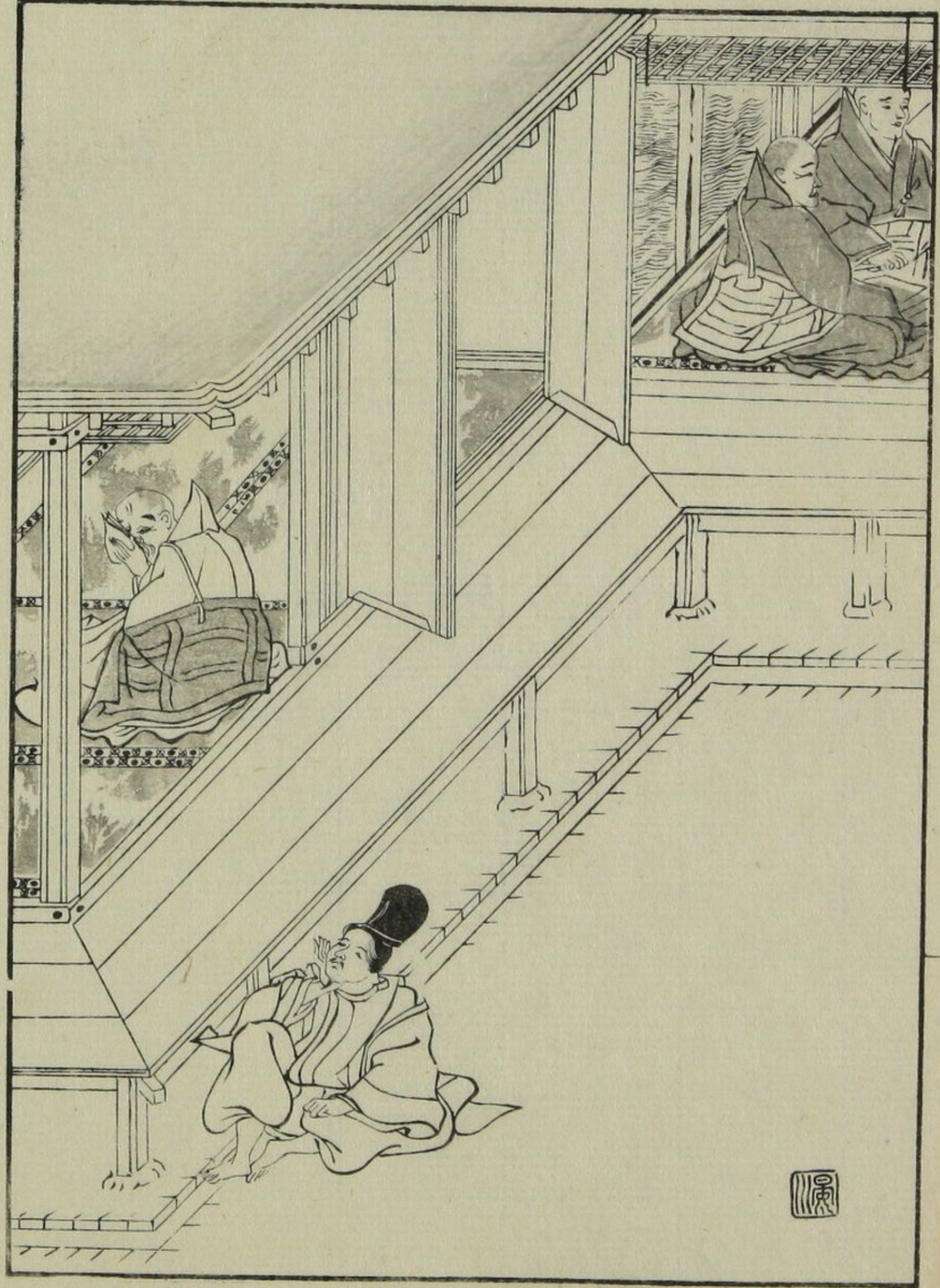
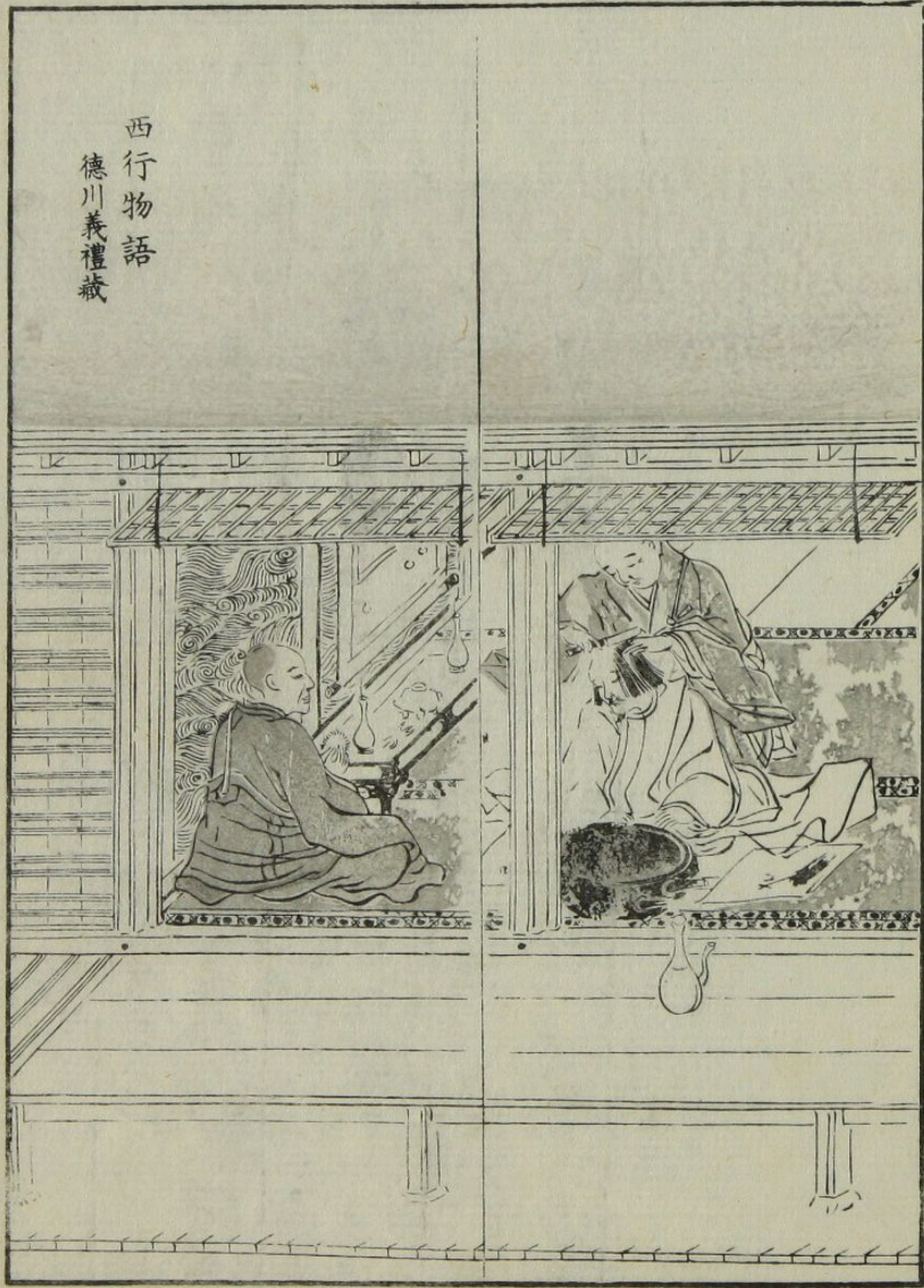
ハ此大納言の作り又他人の作るところのあ  
ひさハ分明あらむといへとも既建治以前の  
述作たる事あきらりあり繪ハ左近將監光貞を  
名して見ざるは光信よあらむ土佐權守經隆り  
書ところのよしを申五百餘年の星霜を経て今  
此書畫小對しそのむらゝを志のふ感悦のあま  
り筆をとりて聊記し侍りぬ

安永四年彌生下旬 太宰權帥藤原公麗  
補同摹本卷尾云



増補考古書譜卷五

西行物語  
徳川義禮載

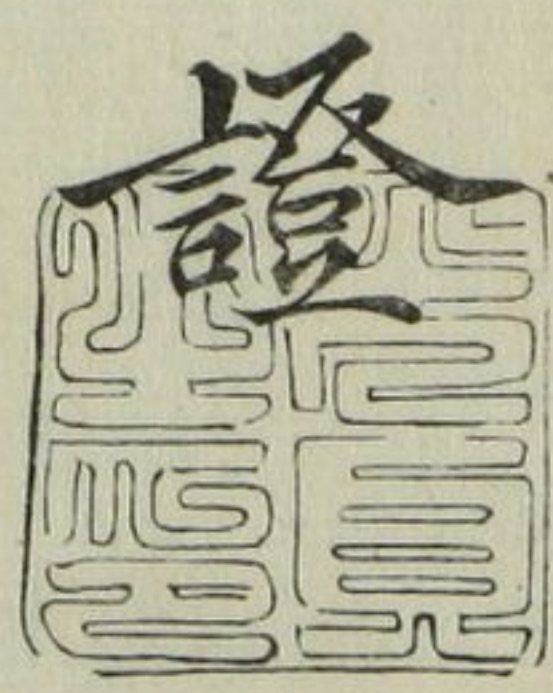


徳川義禮載  
西行物語  
卷五



西行物語之繪 上卷一軸  
右畫所預土佐權守經隆真筆無疑蓋者也  
仍如件  
畫所預從五位上土佐守光貞

安永乙未五月



古畫類聚目錄云西行物語繪土佐權守經隆筆  
倭錦云土佐經隆西行物語詞為家卿  
補真賴曰西行物語繪二卷摹本博物館にあり  
いづれも殘缺本よて二やうあり其一本の卷  
尾の奥書ハ上件ハ掲げたるり如し又一本の

春日社家西氏和漢  
合運北野後辛年戊  
記云建久九年戊午  
二月十五日西行法  
師九十四才双林寺  
於花下寂

卷尾云右繪草子一卷言葉書者為家卿御真筆  
無疑者也應命證之而已承應三曆卯月上旬古  
筆了佐印と見正たり  
貫雄曰此卷殘缺現存とるもの二卷西行發心  
已前の事跡一卷ハ尾州家御藏今一卷ハ吉野  
山よ入る圖也  
躬行按ハ經隆ハ隆親の男承安頃の人為家卿  
ハ建治元年七十九薨せらる經隆よりハいさ  
さう後輩ふして年季不遇をらんり

補同 殘缺一卷

補古畫目錄云西行物語一卷在狩野養川家海田  
采女佑相保筆

補真賴曰狩野氏ハ傳ふる一卷ハ海田相保の

増補西行物語卷五

筆のハあらまして經隆の畫りけるるへき  
り

補晏川曰狩野養川家ハ傳ふる西行物語ハ今  
ハ狩野謙柄所藏せりこまを海田采女の筆を  
りといへるハ非めて尾州家ハ傳ふる所の西  
行物語と同物にて筆者もまゝ土佐經隆あり  
此の卷西行の吉野山ハ入るところあり

同  
三卷

畫二姓名不傳詞兼好法師一説云行光所畫或云  
吉光薩州侯藏

春村曰此卷西行記の原本にして海田采女此  
本を以て寫まるところ圖様相おかし  
躬行按ふ此詞書兼好法師らるるハ行光延

文中の人をば時代あへり吉光ハ正安頃の  
人にして聊先輩らるん  
補真頼曰此の本明治十年の亂に燒失せりと  
そをいむへ

同  
四卷

補倭錦云海田相保西行記四卷

補本朝畫圖品目云西行物語四卷土佐相保畫中  
一卷尾州侯藏

好古小録云西行物語圖四卷畫相保一卷存三  
土佐系圖云相保采女佑藤原為源畫西行物語  
四卷中一卷在尾州

皇朝名畫拾彙云海田采女佑源相保畫相保隆相子或云  
長隆二男改藤原氏為源氏最精畫圖其所繪西行  
後再復本姓此説皆未穩

增補西行物語卷五

物語卷。世寶重之。按或書云。文正年中人書畫俱得。西行物語詞書筆者自跋云。明應龍集庚申夏上陽月中浣日槐下桑門。據之非隆相長隆等之子。瞭然矣。畫後云。右五卷畫者海田采女佑源相保所筆也。段段文字乃愚翁書焉。明應龍集庚申上陽月中浣日槐下桑門押

躬行曰。長隆ハ文永弘安中の人ある事。寫生卷の跋文みて。さたうあり。隆相ハ長隆の男といへり。今姑く相保を長隆の孫。隆相の子として弘安より相保の明應を卒ふる。殆二百年よ過さり。父子三世おして豈如此の年歴あらんや。拾彙の説是より相保の出自猶可考。且此物語上件の奥書より五卷あるを。世上の粉

本概ネ四卷あるハいりお

補真頼曰。本朝畫圖品目。土佐系圖等ハ。西行物語四卷の内。一卷ハ尾州家ハありといへるハ。わろし尾州家ハあるものハ。經隆の筆と稱するものあり。海田采女のゑがはるものハ。其圖も異あり。尾州家藏ある經隆と稱せるものハ。圖ちのさく。海田采女と稱せるものハ。圖おなきし。さるを海田采女うゑるものハ。殘缺尾州家ハ在りとせるものハ。ふと誤せるからし

補又曰。海田相保の西行物語四卷。摹本博物館ハあり。卷尾云。右此五卷畫者海田采女佑源相保所筆也。段段文字乃愚翁書焉。明應龍集庚申

上陽月中浣日。槐下桑門押と見たり。然まとも五卷よりあらざりて四卷あり。案をるは素ハ五卷本あり。つづめて四卷とせるは

補同具慶摹本 四卷

補博物館藏 一卷 内四卷の

補奥書云。海田采女相保り畫りける。西行物語四卷の中。秋の卷の摸本古榮川の門弟仙流舊来所持せし。其人年老て細畫ハ筆をる事能とどとて。後の榮川院いよと幼弱ありしに授く。其摸の凡ちらざるゆゑ秘藏あり。養川院を経て今伊川法眼に至り。其間數十年を経たり。一日住吉桂意に示す。其家は古く此具慶の摸本を傳來る。秋の

卷を闕事久し。是即其一卷ある事を證と。於是始て具慶の筆ある事を知り。裱装を加て十襲して益珍とす。神物の隱見記て爲後證。文化六年九月十三夜明月清光に記す。成島勝雄印。補真頼曰。此西行記詞書筆者ハ。梅園季保卿と記せり。今詞書傳ハらざるといへとも必然るへ

同 五卷

飛鳥井雅親卿女。一位局書畫津輕家所藏。補春村曰。津輕家所藏。西行物語繪五卷。跋云。右五卷畫圖者。海田采女佑源相保所筆也。段々文字乃愚翁書焉。明應龍集 庚申 上陽中浣日。槐下桑門在判と見て。右の本飛鳥井雅親卿

補真頼曰此跋文ハ海田采女の畫りける西行物語の跋文也。ちもせきちりて寫せるものからん

西行物語

所藏不詳摹本  
在博物館



息女局一位の畫畫一筆に寫させしむるを。近衛家より給せりたる本といへり。今こまを見れば、每段錯亂多し。繼目をもせしむるをみたり。ゆ。修補志するものあらん。

同

四卷

畫俵屋宗達詞鳥丸光廣卿以相保本所畫長州家藏

躬行曰。此西行物語といへるもの。素より作り物語にして。出家の年月。遷寂の時日より初めて。事實をたぐへる事おろそきよし。且諸本の事古物語類字抄に詳し。みそたせと事長にせ。爰に載せば。本書につきてみるべし。此詞收續羣書類從第九百四十二

補同

四卷

補卷二奥書云。以外破損候間加修復訖。諸方借用舒卷無故實候所以歟。向後堅可爲禁制矣。明應五年五月十八日出來了。奉行孝心五十六

補真賴曰。此の繪傳へて後土御門院勾當内侍の筆ありといふ。白描の繪あり。方今青木信寅所藏せり。

補

西行記

一卷

補本朝畫圖品目云。西行記一卷。畫高階隆信

補真賴曰。高階ハ誤あるべし。之ハ經隆歟

補同

一卷

補摹本博物館にあり。畫工筆者共は詳らば

補真賴曰。摹本卷尾云。西行物語殘缺古摹本。堀



内藏頭殿所持と見返たり。繪ハ殊勝のものなり

補同 一卷

補古畫目錄云。西行卷一卷。江戸淺草砂利場猿寺地内片山五郎兵衛藏。畫工詳あらむ

補真頼曰。已上三本ハ殘闕あり但一其何の本の殘闕あるを知らむ

補同異本 三卷

補松平隱岐守家藏

補真頼曰。此の摸本博物館ニあり。摸本奥書ニ云々。書畫筆者不知。右西行物語三卷者。松山侯所持。天保九年戊戌孟春令摸寫畢。花押と見返たり。普通の本とハ繪詞ともニ異あり異本

と稱さへ

猿草子 一卷

本朝畫圖品目載之

躬行曰。明治七年十二月一卷をみる。住吉廣行鑿して光純筆とせり。古拙のこゝろ味ひる

狹穂彦物語 三卷

法眼如慶筆

躬行曰。畫稿存住吉家

三寶繪

大鏡卷五謙德公條云。女二君ハ云云。貞元三年ハ圓融院御時。女御おまゐり給へり。云云。此宮ニ御らんぜさせむとて。三寶繪ハ作らむるあり

袖中抄卷三かつま云帝王系圖云白鳳九年十一月依皇后病造藥師寺云云為憲り三寶繪も藥師寺ハ清見をらの母后の御為に建給へる所也  
春村按に大鏡もみ見たる此繪のさま畫卷にて詞もそへりとおろすま日本高僧傳一卷弘法大師傳も見尋たり  
補又曰三寶繪のこと高僧傳要文抄弘法大師の條下も見ゆ

補同 三冊

補東寺寶翰古器目錄云三寶繪詞源為憲作久永十八年八月書寫三冊

補真賴曰久永ハ應永の誤るるよや

補三國念佛傳繪

補親鸞上人御舊跡廿四輩記卷六云鎌倉倉田村卧龍山永勝寺東寶物學如上人筆

補春村曰畫工尋ぬべし

補三部經の繪

補長秋記云保永元年六月廿七日依召參女院仰云五官御惱逐日有増氣今夜書願書欲讀舉急相量可書進者仍書之中一可奉下於高野奥院圖繪金字兩部曼陀羅三部經其次修理趣三昧三七日事可令於東寺三七日間修理趣三昧事

補三條殿燒討の繪或云院御所

補本朝畫圖品目追加云院御所燒討の繪三條殿燒討の繪同歟□□所藏或云御城ト

補真賴曰三條殿燒討の繪と稱するものハ平

治物語繪の殘缺あり。委しくハ平治物語の條  
下ニ云ふべし

補 山家集の繪

補 頓阿高野日記云。西行上人みつゝあらかきたまへる山家集を周制つゝへらきたるを。法勝寺僧坊の火の時焼侍りたる。そのち西行の筆ニつゆたうを以てかゝきて侍りしを見せらる給ひしあり。書畫筆術ひとしといひもさることニ侍る

補 真頼曰。此の書ノ因て按くるニ。西行法師みつゝあらの歌集ニみつゝあらゑをかきくをへらきたるものありしあり。それヲ燒たるを。周制といふ人の。原本ニつゆたうを以て寫し給ひ

きたるありけり

補 山王廿一社圖

補 倭錦云。土佐廣周。山王廿一社圖。東叡山有之

三社圖 一幀

倭錦云。託問信春。三社。印アリ

補 催馬樂繪御屏風

四帖

補 東大寺要錄卷九云。太上法皇御受戒記。院圓融云云。西北二方立四尺御屏風四帖。催馬樂繪

最勝光院障子似繪

玉海云。承安三年九月九日御堂御所障子繪有。其數云。法文云。本文已以數ヶ間。其外女院御所。仁安居住之時。平野行啓。并去年院號之後。日吉御幸等被圖之。各供奉大臣以下。併被寫圖。其面貌。馬權頭

隆信依堪其道圖之。是人面許也。繪師光長云云。又院御所高野詣云云。是同被寫人形像也。珍重無極云云。

同書云。同年十二月七日。次參新御堂巡禮。人々所書之色紙形之内。前大僧正筆殊神妙也。又御所御障子被圖人々之影。仍荒涼不被開。有秘藏云云。而御所預密々可開之由。令語處申御所云云。早可開之由有仰云云。仍開之。高野御幸。平野行啓。日吉御幸等圖之供奉公卿已下。皆悉被寫其面相。可謂奇特事。此中下官不供奉。第一之冥加也。

三代集中女房繪 廿卷

東鑑云。建曆三年三月廿八日。長定朝臣獻繪廿箇卷。納時繪櫃古今已下三代集中撰女房作者。取其詠歌。

并事書意圖之。將軍甚御入興。

躬行按小長定何人あるを志らた。但同年七月廿日。將軍家移徙新御所供奉交名のうち小殿上人出雲守長定とみゆ。

補葬送古圖

補本朝畫圖品目云。葬送古圖。神祇官白川家所傳。補真賴曰。葬送古圖ハ古葬圖と同物をらんりこノ部見合を心。

補三癖の圖

補古畫目錄云。三癖圖。光元畫。光起鑒定。屋代太郎藏。

補同

補同書云。三癖圖。東叡山松林院藏。

補採桑老の圖

補古畫類聚目錄云採桑老圖

左京職圖 一幀

國朝書目載之

狹衣物語扇面繪

土佐系圖云狹衣物語扇面十三枚光信畫之

補古畫目錄云狹衣物語繪十三枚光信

補三十六歌仙額

補甘露寺親長卿記云文明三年五月廿二日詣悲

田院彼寺邊北野天神勸請或仁三十六人歌人可書

進所望之由令申間拜殿寸法罷向見廻了

補同額

補古畫目錄云三十六歌仙北野社藏刑部大輔光

信文明中

補倭錦云土佐光信三十六歌仙額

補元幹曰三十六歌仙像光信の畫あり衣冠等

このまゝからを

補同額

補同書云土佐光起日光御宮三十六歌仙額

同額

同書云春日行秀三十六歌仙額歌清水谷實秋卿

北野神寶

貫雄曰近來剥落不見安政四年住吉弘貫修補

之

躬行曰權大納言實秋卿應永廿七年四月廿一

日薨を行秀ハ土佐守行廣男永享中の人を也

ハ時代合へり

同額

倭錦云土佐光輔三十六歌仙額和歌冷泉為廣卿躬行曰光輔彈正忠廣周男文明頃の人。大納言為廣卿大永六年七月廿三日於能登國薨七十書畫の時代合へり

同額

道の幸談峯云拜殿ハ尊純親王の書せよまへ三三十六人歌合かまじり繪ハ古永徳とぞ

同屏風

寺社寶物展覧目錄警願寺條云歌仙屏風山樂筆歌筆

者尊純親王東福門院御寄附

補繪

尊純法親王後陽成帝御猶子承應二年五月寂

補古今著聞集卷十一云後堀河院御位をむべらせ給ひて内大臣の冷泉富小路亭よりとらせ給ひたる。天福元年の春の頃院藻壁門院の方を日うちて繪づくの具おろひありたり云云。雜繪廿餘卷あさらく書出しておあつくからの櫃二合ゆ入らむたりとす

補嵯峨天皇御影

補京師東寺藏

補真賴曰此の御影今上野寒松院の藏とみせり。絹本あり置色紙像の下にあり。畫上は題して第一嵯峨天皇とあるせり。摹本博物館にお

補同

補東寺寶翰古器目録云。嵯峨天皇御尊影。古畫一幅

補實隆公法躰像 一幀

補嵯峨二尊院の藏。絹本畫工不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。坐像。右手中扇を持。左手中珠數をもてり。畫上は置色紙三枚あり。賛辭を記せり

補實澄公像 一幀

補嵯峨二尊院藏。絹本畫工不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。束帶帶劔の坐像あり

補坂上田村營延鎮行叡像 三幀

補倭錦云。土佐光起。田村九。延鎮行叡居士。京清水寺什物

補真頼曰。田村麻呂行叡延鎮共の坐像あり。摹本博物館あり。摹本ハ畫工光信なるへしとあり

補佐々木高綱像

補裏書云。大檀主佐々木四郎左衛門尉高綱公。畫像傳云。自筆當院被納置云云。寛永十三子丙年修補

之畢。大悲金剛院現住權大僧都法印盛意。花押

補本朝畫圖品目云。佐々木高綱像。高野山泰雲院藏

補集古十種 肖像云。佐々木高綱像。高野山泰雲院藏

補真頼曰。烏帽子直垂を着し。右手に扇をもて  
る像あり。摹本博物館にあり

補齋藤義龍像

補集古十種肖像部云。藤原義龍像。山城國阿彌陀寺  
藏

補真頼曰。束帶の像あり

補佐久間實勝像

一幀

補岡村丹後守藏。畫狩野探幽絹本。摹本博物館に  
あり

補真頼曰。圓相のうちよゑグける半身の像  
あり。猫を抱けり。畫上は大徳寺の僧江月と林道  
春との賛辭あり

補西行法師像

一幀

補松平帶刀藏。繪土佐廣周。絹本。摹本博物館に  
あり

補真頼曰。右手に書を持。左手に珠數をもて  
る座像あり。畫上は置色紙あり。歌をかけり

補策彦禪師像

補集古十種肖像部云。策彦禪師像。嵯峨天龍寺塔中  
妙智院藏

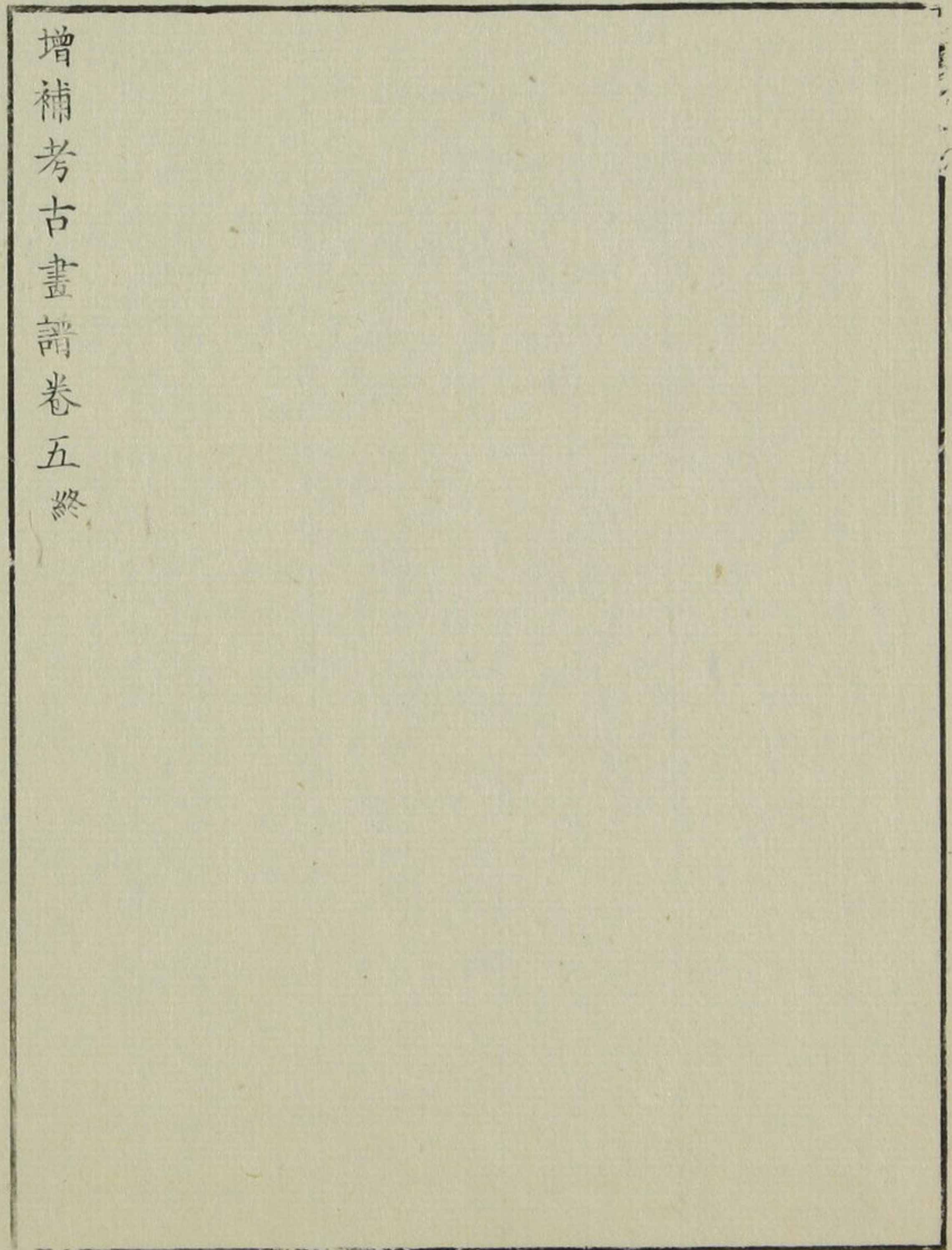
補相實和尚像

一幀

補嵯峨二尊院藏。畫工不詳。摹本博物館にあり

補真頼曰。座像にて珠數一とあり。前は机あり  
經卷十四軸を載せたり





增補考古畫譜卷五終

